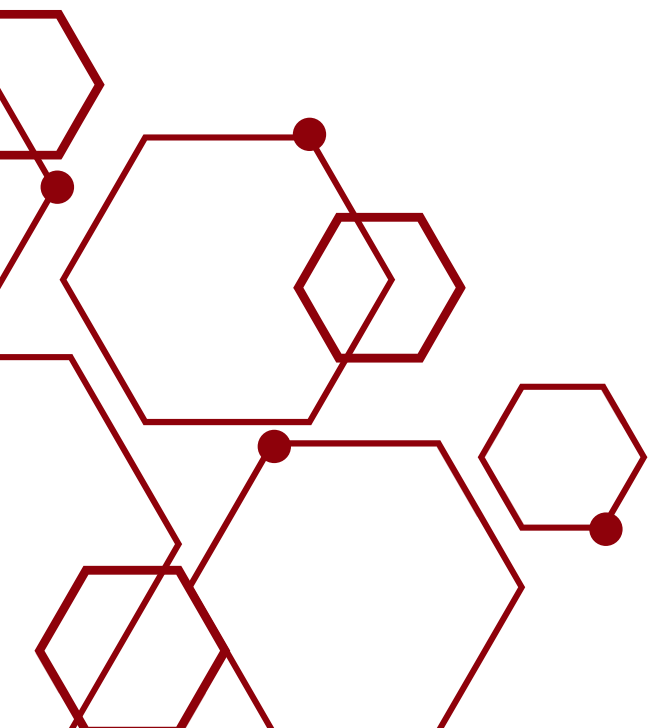


第30回

全国私立大学附属・併設中学校・高等学校

教育研究集会 (附属校サミット)



2025年11月21日・22日

立命館中学校・高等学校

主催：全国私立大学附属・併設中学校・高等学校
教育研究集会実施連盟

第 30 回 全国私立大学附属・併設中学校・高等学校 教育研究集会（附属校サミット）

開催にあたり会場校より

全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会は、日本の中等教育を牽引することを目指す私立大学附属・併設の中学校・高等学校が中心となり、1996年に早稲田本庄高等学院にて第1回が開催されました。今年度は、第30回という節目の年を迎え、創立120周年を迎える本校にて開催の運びとなりましたことを、大変光栄に存じます。

今回の附属校サミットでは、「未来志向の学びと新しい教育への挑戦 ～探究的な学習から見る生徒主体の学びの研究～」をテーマに掲げております。本校では、「自主・自立を促す教育（自ら考え、他者や社会のために自ら進んで行動できる人）」、「グローバル教育（世界を視野に、領域を超えた困難に立ち向かう力を持つ人）」、「STEAM教育（疑問や好奇心を持ち、新しいものを生み出す力を持つ人）」の三本柱を中心に教育活動を展開してまいりました。今回のサミットでは、これらの取り組みの一端をご覧いただき、参加校の皆様の今後の教育活動に少しでもお役立ていただければ幸いです。

初日の記念講演には、学校法人立命館 立命館大学学長特別補佐、立命館大学総合科学技術研究機構招聘研究教員（教授）、立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）研究顧問である野口 聡一氏をお迎えし、「挑戦をやめない生き物を人類と呼ぶ」と題してご講演いただきます。

二日目の基調講演には、東京科学大学 執行役副学長の白井 俊氏をお迎えし、「世界の教育はどこへ向かうか」と題してご講演いただきます。

また、基調講演後には以下の五つのテーマに分かれた分科会を開催いたします。各分科会では、本校の取り組みの紹介に加え、今後の教育の在り方について、各分野の第一人者である助言者の先生方よりご指導を賜ります。

- | |
|-----------------------------------|
| A.これからの時代を勝ち抜く学校 |
| B.SSHの今後と私学への期待 |
| C.未来を拓くグローバル教育 — 小中高大一貫の実践知が導く可能性 |
| D.これからの探究学習の実践 |
| E.次世代型多目的ラボ「MiLABO」で考える探究学習 |

本校では、未来を切り拓く力を育むことを目的として、今年8月に次世代型多目的ラボ「MiLABO（ミラボ）」を設置いたしました。この施設は、立命館大学理工学部との連携のもと、生徒の「創りたい」という気持ちや知的好奇心を最大限に引き出すためのデジタルツールを備えております。ご来校の折には、ぜひこの施設もご覧いただければと存じます。

ご参加の皆様には、授業の合評会等においても、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、本研究集会在皆様にとって実り多きものとなりますよう、心より祈念申し上げます。

立命館中学校・高等学校
校長 東谷 保裕

目次

1. 開催にあたり(会場校より).....	1
2. 目次.....	2
3. 研究主題について.....	3
4. 日程.....	5
5. 会場案内図.....	8
6. 記念講演・基調講演案内.....	10
7. ご連絡とお願い.....	11
8. 公開授業・研究授業 授業デザインシート.....	12



研究主題について

I 研究主題

未来志向の学びと新しい教育への挑戦
～探究的な学習から見る生徒主体の学びの研究～

II 目指す生徒像

学びの中で自ら深い問いを立て、粘り強く挑戦し、成長を遂げられる人

III 主題設定について

教育を取り巻く社会情勢の変化（少子高齢化、高度情報化、グローバル化、自然との共生、価値観の多様化、教員の働き方など）に伴い、国や地域の教育方針も大きく転換を迫られてきている。学習指導要領においても、これまでの「生きる力」を育成することと合わせて、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化することを求めている。その中で子どもたちに培ってやりたい力として、

「知識及び技能（実際の社会や生活で生きて働く）」

「思考力、判断力、表現力など（未知の状況にも対応できる）」

「学びに向かう力、人間性など（学んだことを人生や社会に生かそうとする）」が掲げられている。

また、これまでの「総合的な学習の時間」が、高校では「総合的な探究の時間」と改訂されただけでなく、「古典探究」、「地理探究」、「理数探究基礎」など通常の科目の中にも「探究」とつく科目が設定されるなど「探究」が注目のキーワードとなっている。

本校では「新しい価値を見出し未来に貢献できる人を育てる」として、すでに上記のような社会課題を見据えて、個性を尊重することや自ら考えて行動する生徒の育成を教育方針として掲げてきた。

現在本校では、チャレンジデザイン（R2030）に描く生徒像、将来構想として、「自主・自立を促す教育（自ら考え、他者や社会のために自らすすんで行動できる人）」、「グローバル教育（世界を視野に、領域を超えた困難に立ち向かう力をもつ人）」、「STEAM 教育（疑問や好奇心を持ち、新しいものを生み出す力をもつ人）」を3つの大きな柱と位置づけ、それぞれの取り組みの向上を目指してきている。

特に「探究力の育成」に関わる部分では、高校の課題研究に代表されるような探究学習を10年前から本校では導入しており、課題発見、分析、まとめ、表現の探究の4つのプロセスに基づいた指導を行ってきた。上述した「探究」の名のついた科目が登場していることから、「総合的な学習の時間」（本校においては総合探究基礎）、「総合的な探究の時間」（本校においては課題研究）だけでなく、日頃の授業においても、単純に知識を覚える、教養を身に付けるといった学習だけでなく、課題を見だし、エビデンス（学んだ知識など）に基づいて考察し、主張・意見をアウトプットするという一連の学習を通して、探究力を育成していくことも大切になってきている。

本校の生徒たちは、総合探究基礎や課題研究の授業において、それぞれの授業で軸となっているテーマを理解し、これまでの学習で得られた経験から、自分たちの主張や意見を形成する一連の学習に対して主体的に取り組んでいると言える。日頃の授業においても、知識・技能の習得（何を理解していて、何ができるか）に対して能動的に取り組んでいるが、思考力・判断力・表現力等を培うこと（理解していること・できることをどう使うか）について受動的な側面が多いと考えている。

本主題においては、生徒主体の学びを生み出す探究的な学習の実践を中心に据えているが、そのような実践における評価の在り方や、授業ごとにおける生徒のリフレクションをどのように生かすかなどの付随する課題も検討が必要である。

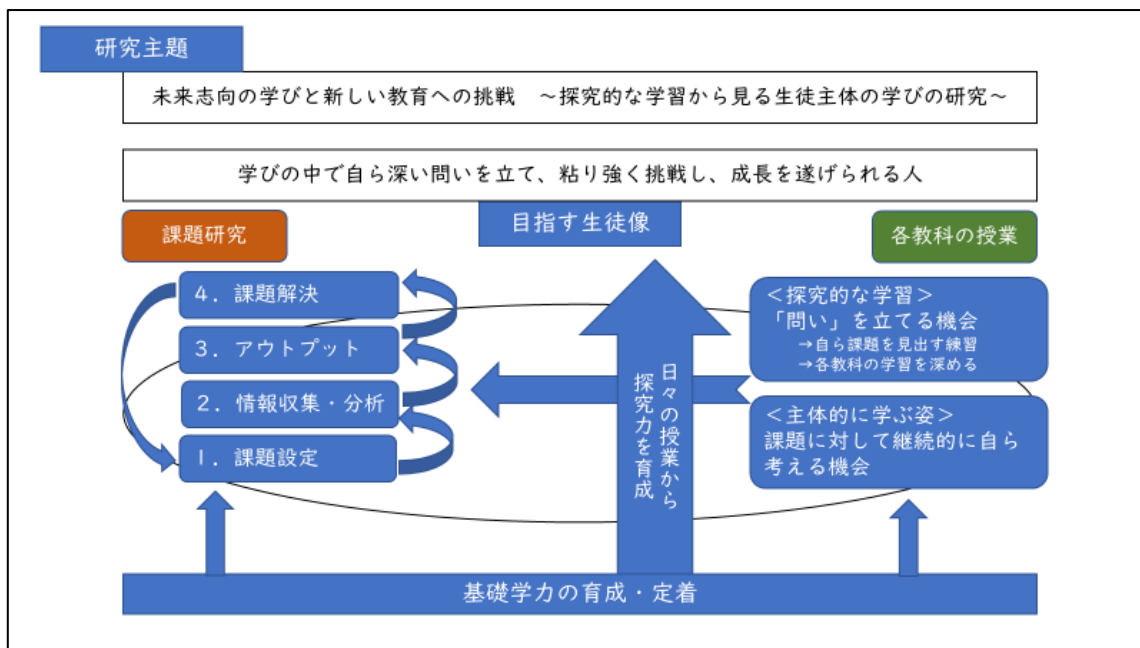
IV 研究の目標

生徒が課題に対して、自らのこれまでの学びを生かし、能動的、論理的に考え、意見や主張を形成できる立命館ならではの探究的な学習の実践の積み上げの推進

V 研究仮説

各教科の授業において、生徒が自ら「問い」を立てる機会を設けた教材や活動を導入することで、生徒の学習への主体的な関与が高まり、思考力・判断力・表現力の向上が見られるであろう。

VI 研究構想



VII 主題の意味

(1) 「探究的な学習」とは

個々の生徒が自ら課題を見出し、これまでの学習等を踏まえて、能動的に考え、情報収集を進めることで、自分自身の意見を持ち、他者（友だちや先生）との練り合い・試行錯誤を通して、解決へと向かう学習

本テーマでは日々の授業における「探究力の育成」や「主体的な学びの促進」を主題に置いており、「課題」という部分は、授業内で教師が生徒たちに学んでほしいと思う内容ということになる。ゼロから課題を「自ら見出す」というより、その教材に内在しているであろう「課題（問い）」を生徒が進んで明らかにし、その課題（問い）の解決に向けてこれまでに獲得した基礎知識を生かし、能動的に解決に向けて取り組むことで、思考力、判断力、表現力を培うことを目指したい。

課題研究の取り組みではテーマ設定が重要となっており、テーマの設定次第では課題研究で本来育てたいと考えている資質・能力の育成が十分に達成できない可能性もあり、課題研究を充実させていくための課題となっている。

こうした答えのない学びや課題研究のように、自らテーマを考え出す資質を養うためにも日々の授業の中での課題（問い）の立て方を学ばせたいと考えている。

(2) 「生徒主体の学び」とは


日々の授業で扱われるテーマに対して、興味や関心を持ち、授業後においても自ら進んで学習を振り返り、次の段階につなげていけるような一連の学習活動

教師は日々の授業で扱うテーマを1時間の授業の中でどのように生徒たちに深めさせるかを試行錯誤している。教師が試行錯誤した内容をそのまま教師が生徒たちに対して授業の中で話し尽くしてしまえば、生徒たちが興味や関心を持って、授業後においても進んで学習を深める機会を失うことになりかねない。

教師はそのテーマの先を知っているものとして、生徒から問いを引き出し、学びのプロセスを見守り、必要に応じて方向づけを行うファシリテーターとして、学びをコーディネートする立場であることが望ましい。

生徒には、授業の中での学びでそのテーマを完結させるのではなく、授業外においても学びを継続・発展させる姿勢を持たせたい。

日 程

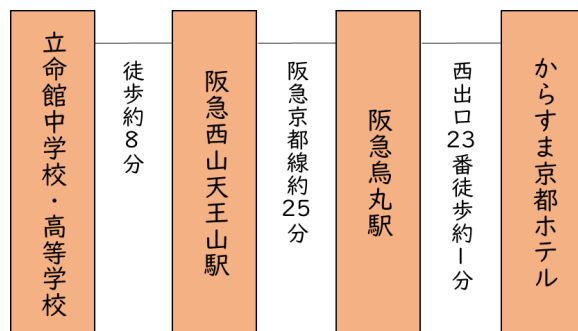
<11月21日(金)>  : オンライン配信するプログラム

時 刻	内 容	場 所
9:30~10:00	受付	1F エントランス
10:00~10:20	全体会	2F
	会場校挨拶 立命館中学校・高等学校 校長 東谷 保裕 氏 テーマ説明	清和会記念ホール 
10:30~11:15	公開授業（合評会はいりません。）	
	<教科> <授業担当者> <学年>	
	① 国語科 小山 百恵/樫本 由紀 高校1/2年	3F 大会議室
	② 社会科 地理 吉田 達朗 高校2年	2F 高校3年2組
	③ 数学科 鷲見 秋彦 中学1年	2F 高校3年3組
	④ 理科 化学 和田 篤史 高校3年	2F 高校3年4組
	⑤ 保健体育科 田中 孝明 高校3年	2F 第1アリーナ
	⑥ 情報科 柳田 泰佑 高校1年	1F メディアラボ1
⑦ 外国語科 英語 鈴木 佑弥/Dixon 中学3年	2F 高校3年5組	
11:30~12:15	研究授業	
	<教科> <授業担当者> <学年>	
	① 国語科 鬼塚 誠太郎 中学2年	2F 中学3年7組
	② 国語科 太田 知佳 高校3年	2F 中学3年5組
	③ 数学科 原澤 研二 中学2年	2F 中学3年8組
	④ 数学科 廣松 光一郎 高校2年	2F 中学3年6組
	⑤ 理科 物理 鍵山 千尋 高校2年	3F 物理実験室1
	⑥ 芸術科 美術 米永 忠裕 中学3年	2F 中学3年3組
	⑦ 技術家庭科 家庭 系井 駿平 高校2年	2F 中学3年4組
	⑧ 外国語科 英語 松尾 由紀/Reynolds 中学3年	2F 高校3年8組
⑨ 外国語科 英語 武田 菜々子 高校3年	2F 高校3年7組	
⑩ 課題研究科 長野 博樹/折田 浩一 中学2年	1F MiLABO Zone1	
12:15~13:15	昼食休憩 ・カフェテリアの営業をいたします。 ・お持ちいただいたご昼食を飲食の際も、カフェテリアをご利用ください。 ・カフェテリア内には飲み物の自動販売機もございます。	
12:20~13:15	研究集会実施連盟 総会	3F 大会議室
13:30~14:00	開会行事	2F
	開会挨拶 実施連盟会長 長屋 頼子（学校法人金城学院） 課題研究生徒発表	清和会記念ホール 

14:15~15:30	研究授業合評会（教科別）			
	<教科>	<学年>	<助言者>	
	①② 国語科	中2/高3	立命館大学教職研究科 教授 井上 雅彦氏	2F 中学3年7組
	③ 数学科	中2	立命館大学教職研究科	2F 中学3年8組
	④ 数学科	高2	准教授 田中 博氏	2F 中学3年6組
	⑤ 理科	物理 高2	東海学園大学教育学部 准教授 中村 泰輔氏	3F 物理実験室1
	⑥ 芸術科	美術 中3	三重大学教育学部 名誉教授 山田 康彦氏	2F 中学3年3組
	⑦ 技術家庭科	家庭 高2	—	2F 中学3年4組
	⑧ 外国語科	英語 中3	立命館大学 名誉教授 湯川 笑子氏	2F 高校3年8組
	⑨ 外国語科	英語 高3	—	2F 高校3年7組
	⑩ 課題研究科	中2	—	1F メディアラボ1
	教員情報交換会			3F 大会議室
15:45~16:45	記念講演 「挑戦をやめない生き物を人類と呼ぶ」 学校法人立命館 立命館大学学長特別補佐 立命館大学総合科学技術研究機構招聘研究教員（教授） 立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）研究顧問 野口 聡一 氏			2F 清和会記念ホール
18:00~20:00	懇親会 会場：からすま京都ホテル 〒600-8412 京都府京都市下京区烏丸通り四條下ル			


<懇親会会場について>



● 会場アクセス



地下鉄烏丸線四条駅南出口目の前

- 懇親会費 7,000円 当日懇親会会場にて現金でお支払いください。

<11月22日(土)>  : オンライン配信するプログラム

時刻	内容	場所
9:00~9:30	受付	1F エントランス
9:30~10:30	基調講演 「世界の教育はどこへ向かうか」 東京科学大学 執行役副学長 白井 俊 氏	2F 清和会記念ホール 
10:45~12:15	テーマ別分科会	
	A. これからの時代を勝ち抜く学校 近畿大学 入学センター 高大連携課 参事 屋木 清孝 氏	3F 大会議室
	B. SSH の今後と私学への期待 奈良教育大学名誉教授 SSH 生徒研究発表会審査委員長 重松 敬一 氏 立命館大学大学院教職研究科 准教授 田中 博 氏 立命館中学校・高等学校 SSH 推進機構長 武田 菜々子 氏	1F プレゼンテーション ルーム
	C. 未来を拓くグローバル教育—小中高大一貫の実践知が導く可能性 立命館大学グローバル教養学部 教授 堀江 未来 氏 立命館小学校 教頭 三ツ木 由佳 氏 立命館中学校・高等学校 グローバル教育部 中西 美佐 氏	1F アクティブ ラーニング ラボ
	D. これからの探究学習の実践 立命館宇治中学校・高等学校 教諭 酒井 淳平 氏	2F 小ホール
E. 次世代型多目的ラボ「MiLABO」で考える探究学習 立命館中学校・高等学校 STEAM 教育部長 小林 誠 氏	1F MiLABO Zone I	
12:30~13:00	閉会行事	
	閉会挨拶 実施連盟会長 長屋 頼子 (学校法人金城学院) 会場校挨拶 立命館中学校・高等学校 校長 東谷 保裕 氏 次年度会場校挨拶 早稲田大学 本庄高等学院 学院長 半田 亨 氏	2F 清和会記念ホール 

会場案内図

教室棟 FLOOR MAP 1F

21日(金)

時刻	内容
11:30~12:15	研究授業

MiLABO Zone1 中学課題研究
 中学課題研究合評会は、メディアラボ1で行います。

22日(土)

時刻	内容
10:45~12:15	分科会E

22日(土)

時刻	内容
10:45~12:15	分科会B

21日(金)

時刻	内容
10:30~11:15	公開授業

メディアラボ1 高校情報

22日(土)

時刻	内容
10:45~12:15	分科会C

教室棟 FLOOR MAP 2F

21日(金)

時刻	内容
11:30~12:15	研究授業
14:15~15:45	合評会

21日(金) 研究授業

組別	授業科目
中学3年3組	中学美術
中学3年4組	高校家庭
中学3年5組	高校国語
中学3年6組	高校数学
中学3年7組	中学国語
中学3年8組	中学数学
高校3年7組	高校英語
高校3年8組	中学英語

合評会は授業を行った教室で行います。国語の合評会は中高合同で中学3年7組の教室で行います。

22日(土)

時刻	内容
10:00~10:20	全体会
13:30~14:00	開会行事
15:45~16:45	記念講演

22日(土)

時刻	内容
9:30~10:30	基調講演
12:30~13:00	閉会行事

22日(土)

時刻	内容
10:45~12:15	分科会D

21日(金) 公開授業

時刻	内容
10:30~11:15	公開授業

高校3年2組 高校地理
 高校3年3組 中学数学
 高校3年4組 高校化学
 高校3年5組 中学英語

教室棟 FLOOR MAP

3F

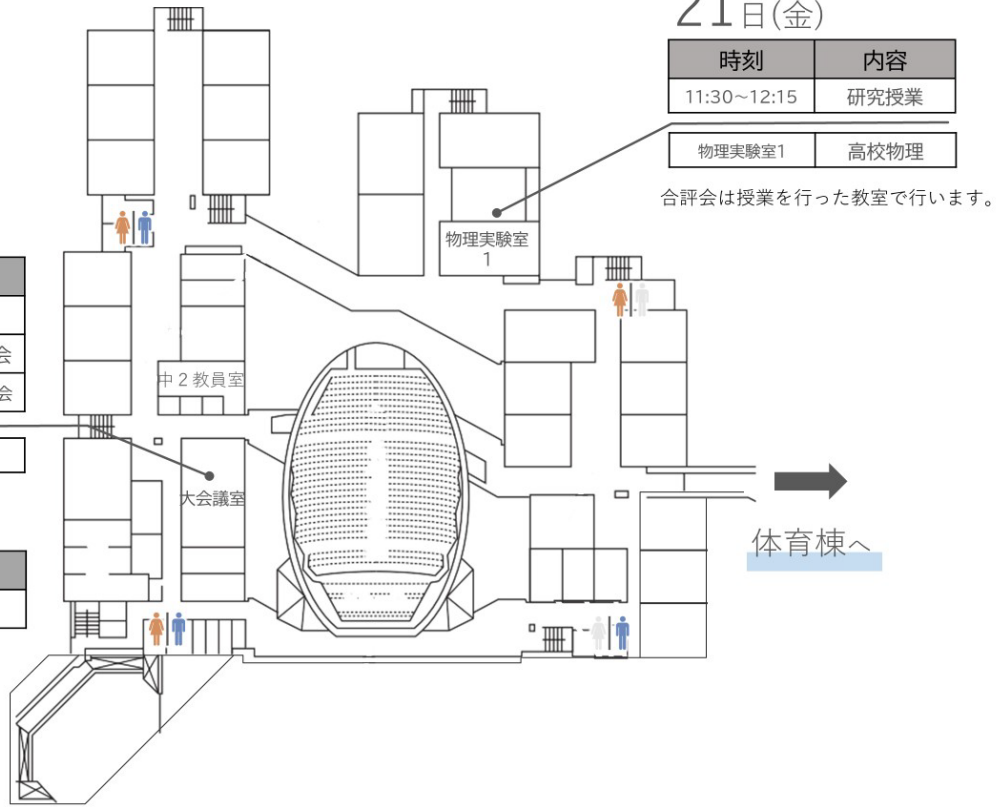
21日(金)

時刻	内容
10:30~11:15	公開授業
12:20~13:15	実施連盟総会
14:15~15:45	教員情報交換会

大会議室	高校国語
------	------

22日(土)

時刻	内容
10:45~12:15	分科会A



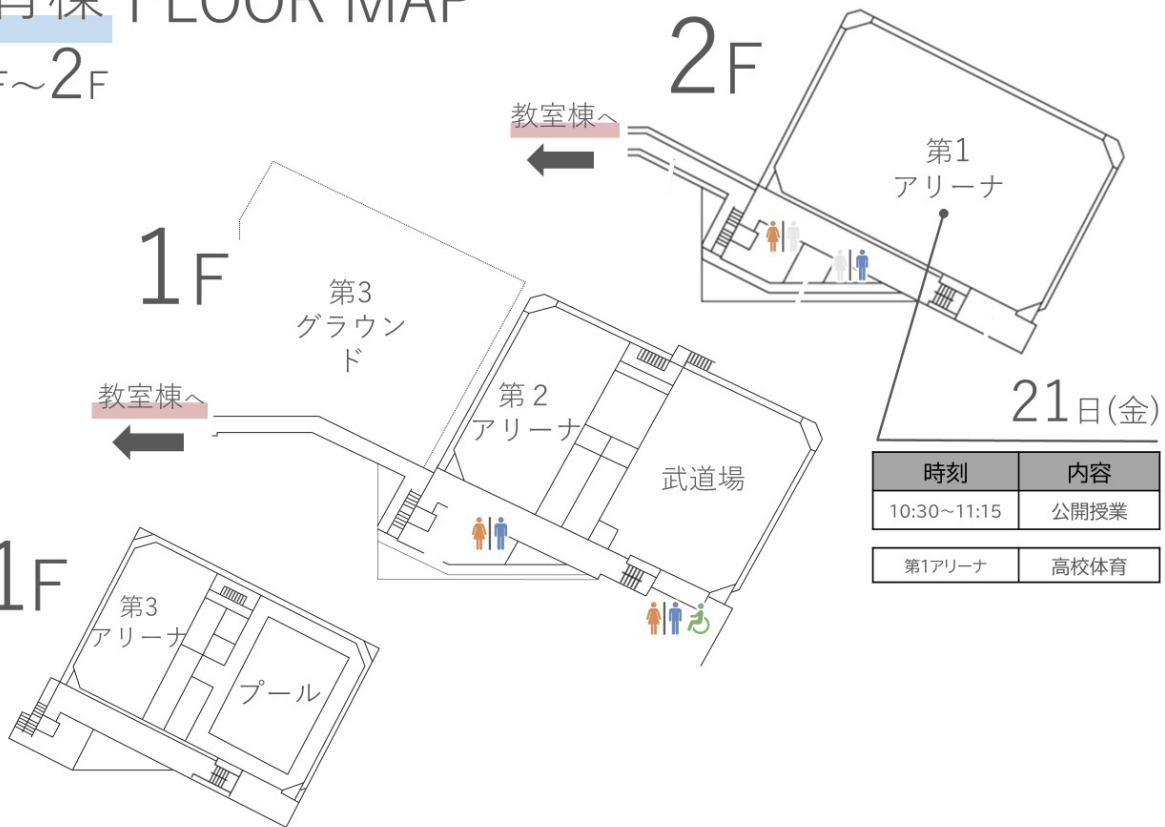
体育棟 FLOOR MAP

B1F~2F

B1F

1F

2F





<記念講演>

「挑戦をやめない生き物を人類と呼ぶ」

2025年11月21日（金）15:45～16:45



講師：野口 聡一 氏

学校法人立命館 立命館大学学長特別補佐
立命館大学総合科学技術研究機構招聘研究教員（教授）
立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）研究顧問

1965年神奈川県生まれ、博士（学術）。3回の宇宙飛行に成功し世界で初めて3種類の宇宙帰還を達成した宇宙飛行士としてギネス世界記録2部門認定。2021年「宇宙からのショパン生演奏」動画などでYouTube Creator Award、宇宙帰還後の燃え尽き体験や死生観を掘り下げた「宇宙の当事者研究」により日本質的心理学会論文賞、ボーイスカウト特別功労賞。プラチナエイジスト 2025 文化教育部門賞受賞。立命館大学学長特別補佐、国際社会経済研究所 CTO、IHI アカデミー長、カップヌードルミュージアム名誉館長、国連 WFP 協会顧問、世界経済フォーラム上級フェロー。劇場映画の吹替え等で声優としても活躍。

著書は「どう生きるかつらかったときの話をしよう」（アスコム）

「宇宙飛行士・野口聡一の着陸哲学に学ぶ 50歳からはじめる定年前退職」（主婦の友社）

「自分の弱さを知る 宇宙で見えたこと、地上で見えたこと」（光文社新書） など多数。

<基調講演>

「世界の教育はどこへ向かうか」

2025年11月22日（土）9:30～10:30



講師：白井 俊 氏

東京科学大学 執行役副学長

2000年に文部省（当時）に入省後、OECD（経済協力開発機構）教育スキル局アナリスト、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長、独立行政法人大学入試センター試験・研究統括補佐官（兼）試験企画部長、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長、同国際統括官付国際戦略企画官、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官等を歴任し、2025年8月より現職。

著書は「OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来」（ミネルヴァ書房 2020）

「世界の教育はどこへ向かうか」（中公新書 2025）



ご連絡とお願い(教育研究集会参加者の皆様へ)

1. 受付について

- 受付にて、名札(入構証兼用)および資料をお受け取りください。2日間続けてご参加の方は、2日目は名札を付けて入構下さい(受付の必要はありません)。
- 名札は入構証を兼ねていますので、校内では常時着用をお願いいたします。
- 名札は1日目・2日目共通です。2日目もご参加の場合は、1日目終了後にそのままお持ちください。
- 懇親会にご参加の方は、円滑な交流のため、会場内でも名札の着用をお願いいたします。
- すべてのプログラム参加を終えられた方は、お帰りの際に受付または名札回収箱へ名札をご返却ください。

2. クロークとお手回り品について

- クロークは、1階受付の後方にあります学園記念コーナーにご用意しております。
- 貴重品や研修に必要な携行品は必ずご自身でお持ちください。
- お帰りの際は、お忘れ物がないようご確認をお願いいたします。

3. 校舎・教室への立ち入りについて

- 本研究集会で使用する会場および公開教室以外の施設への立ち入りはご遠慮ください。

4. 昼食について

- カフェテリア・生協購買が営業しておりますのでご利用ください。また、昼食をご持参されました方につきましては合評会開催のHR教室をご利用いただいても構いません。

5. 録画・録音・写真撮影について

- 本研究集会における録画・録音はご遠慮ください。
- 写真撮影は、教育活動を目的とした参加校内での利用に限り許可いたします。
- ただし、生徒が特定できるような写真の撮影はお控えください。

6. 災害時の対応について

- 災害発生時は、各会場近くの階段から1階へ避難し、第1グラウンドへ集合してください。
- 緊急放送および本校教職員の指示に従って行動していただきますようお願いいたします。

7. アンケートについて

- 次年度以降の企画・立案のための貴重な資料となりますので、ご協力をお願いいたします。

8. 報告集の作成について

- 研究集会終了後、2025年度中に本研究集会の様子や参加者名簿等を掲載した報告集を作成し、連盟加盟校および当日参加者へ配布いたします。

9. 校内 Free Wi-Fi の利用について

- 校内では、参加者の皆様に Free Wi-Fi をご利用いただけます。以下の内容をご確認の上、快適にご利用ください。

■ Wi-Fi 接続情報

- ゲスト wi-fi: nkc-gst ID: guest0170 パスワード: 6>@=SH7k

※ 一部エリアでは接続が不安定な場合があります。ご了承ください。

10. その他

- 校内での喫煙はご遠慮ください。

ご不明な点がございましたら、本校教職員に遠慮なくお申し付けください。

公開授業・研究授業 授業デザインシート

11月21日(金) 10:30~11:15

公開授業 (合評会はいりません。)				
<教科>	<授業担当者>	<学級>	<教室>	<ページ>
① 国語科	小山 百恵/樫本 由紀	高校1年9組 高校2年9組	3F 大会議室	…13
② 社会科	地理 吉田 達朗	高校2年5組	2F 高校3年2組	…14
③ 数学科	鷲見 秋彦	中学1年3組	2F 高校3年3組	…15
④ 理科	化学 和田 篤史	高校3年 3組/4組 CE/8組	2F 高校3年4組	…16
⑤ 保健体育科	田中 孝明	高校3年 (パドミントン) B講座	2F 第1アリーナ	…17
⑥ 情報科	柳田 泰佑	高校1年8組	1F メディアラボ1	…18
⑦ 外国語科	英語 鈴木 佑弥/Dixon	中学3年7組/8組 B講座	2F 高校3年5組	…19

11月21日(金) 11:30~12:15

研究授業				
<教科>	<授業担当者>	<学級>	<教室>	<ページ>
① 国語科	鬼塚 誠太郎	中学2年6組	2F 中学3年7組	…20
② 国語科	太田 知佳	高校3年3組	2F 中学3年5組	…22
③ 数学科	原澤 研二	中学2年7組	2F 中学3年8組	…24
④ 数学科	廣松 光一郎	高校2年 1組/2組 SS	2F 中学3年6組	…26
⑤ 理科	物理 鍵山 千尋	高校2年 9組/10組	3F 物理実験室1	…28
⑥ 芸術科	美術 米永 忠裕	中学3年3組	2F 中学3年3組	…30
⑦ 技家科	家庭 糸井 駿平	高校2年6組	2F 中学3年4組	…32
⑧ 外国語科	英語 松尾 由紀/Reynolds	中学3年7組/8組 A講座	2F 高校3年8組	…34
⑨ 外国語科	英語 武田 菜々子	高校3年7組	2F 高校3年7組	…36
⑩ 課題研究科	長野 博樹/折田 浩一	中学2年8組	1F MiLABO Zone1	…38

高校1年9組、2年9組 国語科 公開授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 樫本 由紀
 小山 百恵

1. 単元名

近代小説と古文を比較して読解する。

教材：芥川龍之介「鼻」・「運」（高校2年生）

「今昔物語集」より上記の原典2作品（「池尾の禅珍内供の鼻の語、第二十」「貧女仕清水観音得助第三十三」（高校1年生）

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

現古の同じ素材の教材を比較し、同一性と差異を明らかにする。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

【構想】芥川龍之介の王朝物と言われる「鼻」「運」について（高2）、原典となった今昔物語集の作品について（高1）、話し合い読み深めたことをそれぞれが発表する。お互いの発表を元に古今の作品について考察し、理解を深める。

【参観のポイント】学年を越えた生徒の発表、話し合い。古今の作品の複数の視点からの比較。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	出欠確認 本時の流れのたまかな確認（3分）	1年生、2年生で混合で一班を作り着席するように声かけ すぐに発表に入れるように指導
展開①	発表6分・質疑1～2分 × 2班（15分） 1、2年生混合の班（予めマッチング）に分かれて発表を行う。事前に取り組んだワークシートを元に発表する。	発表がスムーズにできるよう進行 必要があれば適宜コメント
展開②	・各グループによる話し合い（10分） お互いの発表をもとに、共通点、相違点などについて混合班で話し合いながらまとめていく。 ・各グループ代表よりまとめの発表（10分） 原典・小説を比較して気づいた点、疑問点など話し合った内容を整理し発表する。	机間巡視しながら話し合いを活発化させるようなアドバイス 様子を見ながら進行および時間の調整
まとめ	ワークシート記入（5分）	ロイロノートに提出 後日授業で振り返り、共有

(4) 本時の評価

- ①時代による表現の違いに着目し、その時代特有の表現を捉えることができたか。
- ②作品同士の違いを捉えることができたか。
- ③わかりやすく、伝わりやすい工夫をした発表ができたか。
- ④積極的に意見交換し、読みを深めようという姿勢が見られたか。

高校2年5組 社会科 公開授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 吉田 達朗
 企画者 田中 京平

1. 単元名

地理総合 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解
 5節 世界の産業と人々の生活 「産業力が世界の生活文化に与える影響 ～アメリカ合衆国～」

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

授業テーマ：なぜアメリカの輸入農産物は安いのか？～価格の向こうにみえるものを考察する～

身の回りの輸入品の価格が決まるしくみが製品の生産工程ごとに様々であり、価格の裏側にどのような実態があるのかなど気づいたことを文章化する

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

本時は「産業力が人々の生活に与える影響～アメリカ合衆国～」(全4時間計画)の3時間目である。前の2時間では、先端技術産業の発展、移民の人々と社会の関わりについて学習した。本時では、アグリビジネスやフィードロットなどの大規模な企業的農業システムについて多面的な考察を試みる。あらかじめ課題提示したスーパーマーケットでの市場調査(米国産と国産製品の比較)をもとに、米国産農畜産物の価格について疑問を投げかける。発展途上国の安価な労働力を背景にした「輸出指向型」工業メカニズム(「東南アジア」「ラテンアメリカ」で学習済み)に当てはまらない米国産農産物の価格の安さの背景についてグループワークや映像教材、教科書の図表を手掛かりに掘り下げていきたい。本時の授業を通して、価格決定の背景には様々な社会的要素が関与していることに気づき、それを各自が文章化することを目指す。

(3) 本時の展開(授業デザイン)

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	前時に提示した課題「スーパーマーケットでの市場調査」をもとにグループで情報交換(国産と米国産の価格比較)をする。	グループ分け ワークシートを配布 本時の授業テーマを提示する
展開 ①	(1) 安価な輸入品について 安価な輸入品の代表例として衣服について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メイドイン〇〇(南アジア、東南アジア、中国)の服はなぜ安いのか?</div> グループワークを行い、クラスで意見を共有する。 (2) 輸入品のコストについて 輸入品には様々なコストが上乗せされることに気づく。	自分が着ている衣服のタグを探してどこで生産されたものかを確認させる。 キーワード：安価な労働力、輸出指向型システム 輸送費や関税が上乗せされるので、一般的には輸入品は価格が高くなる。(例：ヨーロッパ産の食料品など)
展開 ②	(3) アメリカ産の輸入品について <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アメリカ産の輸入農畜産物はなぜ安いのか?</div> グループで仮説を立てる (4) 映画「フードインク」視聴 アグリビジネスの一端を見たあと教科書のデータ(耕作面積、穀物収量)を確認して、日米の農業システムの違いを考える	アメリカは人件費が高く、輸送コストもかかるという矛盾点に気づかせる。 キーワード：大量生産システム・フィードロット・多国籍企業・穀物メジャー
まとめ	「アメリカ産の農産物はなぜ安いのか」という問いに対して自分でまとめて文章化する	生産工程による違いで価格が決まる仕組み、その裏側の実態に気づきを持たせる

(4) 本時の評価

- ・グループワークでの活動の見取り【Ⅲ】
- ・ワークシートへの記入【Ⅰ】
- ・まとめ作業【Ⅱ】

中学 1 年 3 組 数学科 公開授業デザインシート

2025 年 11 月 21 日（金）授業者 鷲見 秋彦

1. 単元名

第 2 章 空間図形 1. 「いろいろな立体」 （単元全 18 時間中、本時 2 時間目）

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

正多面体の性質や構成を調べ、考察を行うことを通して、立体図形についての理解を深める。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

実際に手作業で組み立てた立体を触ったり、ICT を活用しながら立体を捉えたりする両方のアプローチから性質や構成を調べ、それぞれの長所や短所を感じつつ、その結果を仲間とともに論理的に考察することで、立体図形についての理解を深めることをねらいとする。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導 入	前時の学習内容を振り返る。 ・立体名、用語、正多面体とは。	・全員で前時の学習内容を再確認し、本時のスタートラインを揃える。
展 開 ①	5 つの正多面体の構成要素を調べる。 ・正多面体【正四面体・立方体・正八面体・正十二面体・正二十面体】 ・構成要素【頂点の数・面の数・辺の数】 ①個人で予想をたてる。 ②グループで協働し、各正多面体の構成要素を調べる。 ③構成要素の正解を確認する。	・前時で展開図から作成した正多面体の実物、また、ICT 機器上で表示できる正多面体を準備しておき、自由にそれらを参照できるようにしておく。 ・特に面数が増えてくると、面や辺の数を数えることは大変であり、数え間違いの可能性も高くなることを確認する。
展 開 ②	構成要素の数の特徴や相互関係を探る。 ・正六面体(立方体)⇔正八面体、正十二面体⇔正二十面体 の双対性。 ・辺の数や頂点の数を、数え上げるのではなく、計算で求める方法とその論理 ①(辺の数) = (1 面の辺の数) × (面の数) ÷ 2 ②(頂点の数) = (1 面の頂点の数) × (面の数) ÷ (1 頂点に集まる面の数)	・グループで話し合いながら、気づきを共有していき、メモに残していくように伝える。 ・計算式だけで終わらず、なぜその式が成り立つのかを論理的に考えるように促す。 ・グループから全体共有に移行し、授業者がファシリテートを行う。
ま と め	5 種類の正多面体と、その構成要素について特徴と相互関係を含めて確認をする。 正多面体は 5 種類しかないことを伝える。 オイラーの多面体定理を紹介する。	・本時の到達点として全員で理解すべき内容と、発展的な数学内容の紹介とを区別して伝える。

↳ 【 $V(\text{頂点の数}) - E(\text{辺の数}) + F(\text{面の数}) = 2$ 】

(4) 本時の評価

【知識・技能】

- ・ 5 つの正多面体の構成要素について、正しく理解をすることができるか。

【思考・判断・表現】

- ・ 構成要素の特徴や相互関係について、数学的・論理的に法則を見つけ出そうとしているか。

高校3年 文系選択理科（化学） 公開授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 和田 篤史

1. 単元名

「高3文系化学の総括」

2. 本時の展開

（1）本時の目標

この科目は文系生徒に対し、化学のみならず広く科学的な視点を提供することを通して、大学での学び、あるいはさらにその先の人生の視野を広げることを目指しています。公開授業では、直近に行ったプラスチックごみに関するディベートを中心に、年間のまとめに相当する内容を実施することを通して本授業全体を通して行ったことを共有したいと考えています。

（2）本時の授業構想と参観していただくポイント

年度当初、「君たちの頭に爪痕を残すような授業を展開する」と申し上げました。即ち、主体的に学ぶためには生徒自身が思いもつかないようなことを含めて様々な視点を与えることも有意義であると考え、それを行ってきたつもりです。この「爪痕」がどのような形で残り、そこから何を考えたのかの「検証」を行います。

（3）本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	前回実施のディベートにつき、何を学べたかを振り返らせる。	プラスチックごみの扱いという内容面に關わること、ディベートという活動面に關わることの双方にわたるようにする。
展開①	本授業で1年間取り上げてきたテーマにつき、どのようなものがあつたかを振り返らせる。	生徒の目には、基本的に毎回読み切りの形式で授業がなされているように見えている形をとっている。過去の資料（全て各自のiPadに残っている）のタイトルを見る形で振り返る。
展開②	毎回の授業のテーマにつき、授業者がどのような意図をもって単元を構成したり事例を取り上げたりしたかを語る。	ただ受け身になって聞くのではなく、授業者の意図が自分としてはどう受け止められたのかを意識するようにすすめる。
まとめ	「この1年間でこの授業を通して学び、感じたこと」をまとめさせる。	知識、思考、感情など様々な側面があるが、なるべく複数にわたって書くように促す。

（4）本時の評価

本時に限らず、毎回授業内で与えた問いかけ、あるいは当日の感想について書かせて提出をさせており、これをもって平常点評価としています。本時は、まとめで提出された記述を中心に、何が学べたか、逆に何が学べなかったのかの自己省察ができていのかを見ます。

高校3年B講座 保健体育科 公開授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 田中 孝明

1. 単元名

男女共修選択体育 「バドミントン」

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

①生涯にわたって運動を楽しみ健康を保持増進できるような生徒を育てる、②施設設備の安全点検と環境整備、安全に配慮した指導計画、生徒への指示の徹底（明確な指示・集合整列、話を聞かせる・ルールづくりなど）、③生涯を通じて体育・スポーツを継続できるように、基礎体力・運動能力の向上を目指すともに、体育・保健指導などを通して、生涯にかかわる健康観を養う、④授業を通じてリーダーの育成及びリーダーを中心として自主的な活動が出来る集団作り、授業内でのグループリーダー、体育的行事でのリーダーへの指導強化、⑤主体的・対話的、かつ思考力・判断力を伸ばす授業、⑥授業運営の工夫。特に ICT 教育下における体力維持・強化を念頭に、実運動時間（25分）の確保、⑦ICT教育への対応と実践と交流。

本校の保健体育の目的として、上記7点を掲げている。その集大成として高校3年生の男女共修選択体育がある。この授業では、毎時間生徒がリーダーになり、授業計画を作成し、事前に担当教員と打ち合わせ（※この事前打ち合わせがこの授業の肝）をする。授業もリーダーが全て行っている。本時も、その中の1時間として授業展開する。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

授業構想：研究主題「探求的な学習から見る生徒主体の学びの研究」の実践が詰まっている授業

ポイント：「いかに教員の存在感がない授業が展開されているか？」

教員ではなく生徒の言動や表情の観察」

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	整列 出欠点呼（班リーダー）	リーダー・班員へのエール （リーダーシップ・フォロワーシップを高める意識付け）
展開①	事前に打ち合わせを済ませたリーダーノートをもとにした、リーダーによる授業展開	①安全面での視点での見守り ②リーダーの評価 ③班員の評価
展開②		
まとめ	片付け 班ミーティング 整列 教員からのフィードバック	プラスのストロークを中心としたフィードバック 次回の授業の確認

(4) 本時の評価

主体的に学習に取り組む態度：積極性 協働性 準備片付け 安全配慮 指示聞き

思考・判断・表現：リーダー性、リーダーノート、マイノート（本時の振り返りノート）

※ロイロノートを使用

技能・知識：個人技能、グループとしての技能向上、練習・ゲーム運営

高校1年8組 情報科 公開授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 柳田 泰佑

1. 単元名

情報社会における技術の活用と課題

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 生成 AI の仕組みと限界を理解する。
- AI の出力する情報を鵜呑みにせず、自分で情報を検証する力を育てる。
- AI との適切な付き合い方について考察し、自分の意見を持つ。

(2) 教材観

本時で扱う教材は、生徒が AI の出力結果を批判的に捉え、出力結果について深く考えるものである。AI の学習の流れを体験を通して理解できる点が大きな特徴である。

(3) 生徒観

学習に向かう意欲はあるが、計算問題や調べ学習などの自ら興味をもって考える問題を苦手とする傾向がある。普段、使っている技術に対して批判的に思考し、強い好奇心をもって授業に臨むことを期待する。

(4) 指導観

AI が出す答えをうのみにせず、正しく判断し、活用することができるような知識とスキルを身に付ける。また、すでに普通の生活に入り込んできている AI がどのように学習して答えを導いているかを学び、その限界を感じる過程を大切にす。

(5) 本時の授業構想と参観していただくポイント

題材としてはとても身近かつホット。受け身にならず主体的な活動ができているかを大切にさせたい。大人にとっても興味深い内容なので、ぜひ楽しんでいただけたらと思います。

(6) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	AI とは何かを説明 ChatGPT が生成した文章を提示	違和感や疑問点を挙げられるような声掛け
展開 ①	AI の答えの真偽を自分で検索して検証 検証結果を共有	部分的な間違いがあるので、そこにも注意できるように声掛けをする。
展開 ②	Teachable Machine で機械学習の仕組みを体験 AI にダミー情報を学習させるとどうなるかを体験	どのような結果になるか予想をさせる。
まとめ	本時の活動を通して AI の使い方についての考えが深まったか確認する。	

(4) 本時の評価

観点	観点別評価基準
知識・技能	AI をはじめとした情報技術の仕組みや特徴について理解している。
思考・判断・表現	AI の限界や問題点を理解し、適切な判断を自分の言葉で説明できる。
主体的に学習に取り組む態度	AI の活用に関心を持ち、他者と協力しながら積極的に調べ・考察する姿勢をもっている。

中学3年7,8組 B講座 外国語科 公開授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 鈴木 佑弥, Ashton Dixon

1. 単元名

Entrepreneurship: Empowering Teen Voices through Creative and Critical Language Use

2. 本時の展開

(1) 本時の目標

準備物に即して、英語で質疑応答ができる。

評価基準を理解して適切な評価と判断ができている。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

本時は、単元の最終タスク直前のリハーサルです。最終タスクでは、各チームが自分たちのデザインした会社(またはプロジェクト)について短いプレゼン(PIAI, mission statement, products/services, recruitment (4つの重要概念) + 本時で得た改善点)を行い、その後に質疑応答(Q&A)を受け、オーディエンスが観点に基づいて評価します。したがって本時は、最終タスクのQ&A場面の成功を主眼に、(1)聞き取り→即興応答の練習、(2)観点に基づく評価と言語フォームの確認、(3)FBを根拠とした改善案の提示、へとつながる構成になっています。

(3) 本時の展開(授業デザイン)

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	(5分) 本時の活動の指示	最終タスクで行うことの確認と本時の活動の目的意識を持たせる。
展開①	(10分) 教員からの4つの重要概念と関連する質問に回答する。 そのやりとりを他のチームはメモしておく。 (5分) グループ内で改善し練り直す。	グループの中で一部の生徒だけが話さないようにカテゴリーを明示して質疑のやり取りを行う。 教員一人は適切な質問する、一人はリキャストを行う。 やり取りを踏まえて、改善のコツを与える。
展開②	(5分) 発表の評価法について学ぶ。その観点をもとに、評価する準備をする。 (3分) 質問する側と答える側にわかれ、片側から制限時間内で続けて質問、質問する側は答えをメモする。 (3分) 交代 (2分) 基準に基づいてジャッジと評価の準備を、グループでする (5分) ジャッジと評価を相手チームにそれぞれ伝える。	聞いた内容を判断分析させるようにする。また、ジャッジの表現の型を与えておく。 リハーサルタスク時点での熟達度の確認のため、お互いの質疑応答の様子を動画に撮らせて提出させる。 リハーサルタスクの段階では評価基準の理解のすり合わせや理解度の確認のために、グループ全体で話をさせる。
まとめ	(5分) ジャッジの内容を全体で共有する。	

(4) 本時の評価

与えられた質問を的確に理解して、準備物との関連性を即時に結び付けて適切に回答している。

相手とのやり取りを分析的、批判的にとらえて、やり取りの内容を基準に即して適切に評価できる。

中学2年6組 国語科 授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 鬼塚 誠太郎

1. 単元名

クラスの「ロゴマーク」「キャッチコピー」を作って提案しよう。

2. 授業デザイン

(1) テーマ

主張に対する根拠の妥当性

(2) 単元の目標

- 意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。(知技(2)ア)
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。(思判表・B書くこと・(1)ウ)
- 言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。(学人)

(3) 指導観・生徒観・指導観

- 本校の中学2年生の生徒たちは、本年度文化祭でステージパフォーマンス(創作ダンス等)を経験して、イメージしているものを言葉と動作にすることの往還を経験した。特にリーダー層は自分の頭の中にイメージする動きや日々の練習での反省点・改善点など、思っていることを的確に他者に伝えることの難しさを経験している。
- 現代ではyoutubeをはじめとした動画、特に数十秒～1分程度のショート動画をよく見るようになった。さらに生成AIが私たちの身近にある時代に、あらゆることがわかりやすくシンプルな言葉に表現される傾向がある。そのような中で、イメージをするものの思い通りに言葉を伝える難しさに直面し、言葉を選ぶ難しさと大切さに気づく機会を設けたい。
- 今回、提案書の作成を通じて自分たちの作ったロゴマークとキャッチコピーといった考え(主張)を根拠・理由を明らかにして他者に伝えることに挑戦したい。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴやキャッチコピーの目的・特徴を理解している。 ・主張と根拠の関係を説明できる。 ・提案書の形式や表現上の工夫(説明・具体例・描写など)を適切に用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張(自分たちのロゴ・コピーの意図)を明確に示している。 ・根拠の妥当性を踏まえて説得的に表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを深める意欲をもって学習に積極的に参加している。 ・他者の意見を受け入れ、より良い提案へと改善しようとしている。
評価方法	ワークシート	ワークシート、提案書の検討	本番の発表への態度、発表に至るまでの製作過程での貢献。

(5) 単元指導計画(全5時間)

◎ジグソー法で行う。

〈分割班〉…1つの班にキャッチコピー・ロゴを考える人のみがそれぞれ集まる。

〈全体班〉…キャッチコピーを考える生徒、ロゴを考える生徒それぞれが集まり、一つの製作物に向けて活動するグループ。

時間	活動内容	資料
1時間目	<p>【活動1】〈講義形式〉 キャッチコピー・ロゴの基本的な意味や目的など、全員が知っておく必要があるものを学ぶ。</p> <p>【活動2】〈分割班〉 優れたキャッチコピーやロゴマークの分析を行い自分が作成する際に参考となる形を知る。</p>	ワークシート(第1回)
2時間目	<p>【活動1】〈分割班〉前時【活動2】でおこなった分析について〈分割班〉で班内交流する。</p> <p>【活動2】〈全体班〉 全体班となりクラスのロゴ・キャッチコピーをするうえでのコンセプトを考え、ワークシートに記入する。</p>	ワークシート(第2回)

3時間目	【活動1】〈全体班〉ロゴ・キャッチコピーについて全体班で検討する。 【活動2】〈全体班〉提案書の書き方について学ぶ	ワークシート（第3回） 提案書テンプレ
4時間目	【活動1】〈全体班〉考えたロゴ・キャッチコピーを提案書にまとめ、発表準備を行う。	
5時間目 ★本時	【活動1】〈全体班〉ロゴ提案書の発表会を行い、それぞれの提案書について、主張と根拠の妥当性をコメントカードで相互評価する。コメントカードのフィードバックを受け、意図したメッセージが伝わったか整理する。	ワークシート（第5回） ・コメントカード

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

これまで〈全体班〉で検討を続けてきた内容を、全体の場で発表する機会となる。単にインパクトのある「ロゴ・キャッチコピー」を追求するのではなく、それぞれのグループが作った「ロゴ・キャッチコピー」とその根拠となる理由に妥当性があるかどうかを検討する。

(2) 本時の授業構想

本時の前半では、各グループの作成したロゴ・キャッチコピーの発表を行い、発表班以外のクラスメートがどのように捉えられたかという点についてコメントカードに記入して発表班にフィードバックする。後半はコメントカードを受け、①自分たちの主張とその根拠の妥当性はあったのかということ、②自分たちの発表を聞いた受け取り手に意図したメッセージが伝わっているのかという点を整理する。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導 入	〈全体班〉 1. 提案書の書き方を復習する。	・これまでの授業で行った内容のポイントを概括する。
展 開	【発表（発表時間1班あたり3分×6班）】 1) ロゴ・キャッチコピーのみを見せ、聞き手は第一印象をコメントカードに記入。 2) 提案書の本文を読んで、聞き手は④第一印象から印象が変わったか、⑤主張と根拠が合致しているかどうか、説得力があるかどうか、という点をコメントカードに記入。 3) 各班1)～2)を繰り返す。 <u>※コメントカードは全ての班の発表が終わるまで手元においておく。</u>	・コメントカードを配布 ・ <u>インパクトの強さは要素の一つにすぎず、主張と根拠の妥当性を評価するように伝える。</u> ・発表するグループへのリスペクトは欠かさないようにコメントカードに記載する。
ま と め	1) コメントカードを発表班へ渡す。 2) コメントカードを受け取った班は、各班のコメントカードを見て、自分自身が思った通りに伝わっているかどうか、話し合い、ワークシートに記入する。	・他者からの意見を踏まえてどのような気づきがあったのか言語化を促す。

4. 本時の評価規準

- ・他の班の発表や提案書について、自分の考えていることが適切にコメントシートに言語化できている。
- ・クラスメートからのフィードバックを受けて、自分たちが伝えたいことがどの程度伝わっていたのか、良かった点と改善点はどこにあるのかを自己評価できている。

*参考文献等

・「キャッチコピーのつくり方 一瞬で心をつかむ、一生役立つスキル」川上徹也
日本実業出版社

・「ロゴデザインの教科書」植田阿希 SBクリエイティブ株式会社

・「思考を鍛える レポート・論文作成法」井下千以子 慶応大学出版会

・「問う方法・考える方法『探求型の学習のために』」河野哲也 ちくまプリマー新書

・「本質をつかむ聞く力 ニュースの現場から」松原耕二 ちくまプリマー新書

・「基礎からわかる論文の書き方」小熊英二 講談社現代新書

・「デザインの言語化」こげちや丸著・WorkshopMAGAZINE 編 左右社

・「正しく読み、深く考える日本語論理トレーニング」講談社現代新書

・「デザイン心理法則108」三井将之 株式会社翔泳社

・「考える力をつける論文教室」今野雅方 ちくまプリマー新書

・「ロゴデザインの教科書」植田阿希 SBクリエイティブ株式会社

・<https://logo-online.jp/blog/logomark-logotype-difference/> ロゴ・オンライン

高校3年3組 国語科 研究授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 太田 知佳

1. 単元名

森鷗外「舞姫」を読み、太田豊太郎の手記から近代のアイデンティティについて考察し、論述する。

2. 授業デザイン

(1) テーマ「語ること 語りえないこと」

(2) 単元の目標

- 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めることができる（知識・技能 (2) ア）。
- 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。（思考力・判断力・表現力 A・エ）
- 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。（思考力・判断力・表現力等 B・キ）
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 教材観・生徒観・指導観

教材観： 本学年は筑摩書房『文学国語』を現代から近代へと作品の読みを進めている。4月当初に扱った梨木果歩「プラスチック膜を破って」は、不特定多数の中で多量の情報を避け面倒を避けるためにまどうプラスチック膜のありようとその膜が「破れるとき」について言及している随筆である。生徒たちは日常の自己のありようや他者との関係に新しい視点を生むこの作品への面白さや異論、発展的な思考を口にすることも多く、今年度この生徒たちと文学を読み進める際のサブテーマとして持つこととした。

「舞姫」は主人公太田豊太郎がドイツでの留学を終え帰りの船の中でまとめられた手記である。豊太郎は頭を悩ませる「人知らぬ恨」を「いかにしてか此恨を銷せむ」と日記帳に向かう。書くという語りの装置によって描き出された「舞姫」の中で豊太郎が語ること、語りえないことを考察することによって私たちにとって「書く」営みの価値について考える。

生徒観： 上記のような傾向をもつ高3の生徒たちは中学一年生の入学式をコロナ禍とともにスタートした背景がある。中学校という大きな自我の変化の渦中に行事を真っ当に行えなかったことからか人とぶつかる経験に弱く、行事やホームルームの議論などに際してもアンケートやオンラインでの作業などを用いた「スマートな」意見集約をする姿が見受けられる。また、授業内でグループ活動を行う際にも分業にはなりえても、協働・共創の関係に踏み込む一歩が出ない姿が多く見られた。このような生徒がプラスチック膜と「こころ」「舞姫」を交差させて読むことで時代としては遠い作品と彼らの「今」をつなげる試みとしたい。

指導観： 1学期に履修した「山月記」において文体へのとっつきにくさという課題があった。「舞姫」にも同様の困難さが想定されるため、生徒たちと「舞姫」の距離を縮めるために現代語訳・口語訳も併せて示すこととした。また、本取り組みではディスカッションの根拠は原文の表現を用いることを基本とした。

文学作品としては高校3年生で触れる最後の作品である。3年間、ないしは6年間の「書くこと」の集大成として、「書く行為の意味」を他者と共に見つめる時間としたい。

本単元の前段階として、夏休み明けの実力テストではエーリッヒ・フロム「自由からの逃走」を読み、先述の「プラスチック膜」の萌芽とも言える「社会的自我」という概念に触れ、近代以降の人間が「人気」のために生きざるを得ないという指摘を踏まえ夏目漱石「こころ」を学習している。また、読了後「私の心を文学で表現する」という課題に取り組み、論述、エッセー、小説、詩の中から選んだ形で表現活動を行ない「書く主体」も経験している。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> ・『舞姫』の内容を時代背景や豊太郎の置かれた状況と合わせて理解する。 ・太田豊太郎をただの「悪人」としてではなく近代人的人物の象徴として捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の根拠を用いて自身の主張を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文と口語訳（現代語訳）ディスカッションを通して、与えられた問いに対し自身の答えを積極的に構築しようとする。 ・書くことの意味を自分事として再解釈しようとする。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめプリントへの記入の状況や最終論述の内容などから総合的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の問い5つに対する論理性をルーブリックの形で示し、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション参加時の、発言や論述の内容から総合的に評価する。

(5) 単元指導計画 (全12時間)

- ・「舞姫」内容読解 (6時間)
- ・時代背景理解および「豊太郎は批判／擁護されるべきである」立場表明 (1時間)
- ・韻文 (短歌・俳句) (1時間)
- ・ディスカッション (3時間)
 - 1時間目：批判派、擁護派を混ぜた10のグループを作成。準備した5つのカードのテーマに即してディスカッションし、班としての主張をまとめる。
 - 2時間目：ディスカッションの結果報告としてカード①～③の発表
 - ①・豊太郎は本当にエリスを愛していたのか？／彼の愛は純粹だったのか、それとも自己中心的だったのか？
 - ②・豊太郎の行動には母や父の影響がどう表れているか？／母の期待と官長の指導は彼の人格をどう歪めたか？
 - ③・再び官僚になる道をえらんだ豊太郎はその後どのような道を歩むと想像するか。
 次回の考察テーマ予告「太田豊太郎を通して、どんな“近代人”が見えたか。」
 - 3時間目：本時
- ・論述 (1時間) 豊太郎が「書くこと」で“恨”を言葉にした結果、恨みを消すことはできたのか。

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

豊太郎はなぜ書くのか？

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

5つのテーマで議論することで、感情的に読んでしまいがちな「舞姫」を、現代にも通ずる象徴的なストーリー (具体的には、豊太郎が「書く」のは近代以降、人間にとって「自己と向き合い」「アイデンティティを確認する」ためのナラティブを整える機能を負う”手記”の萌芽としての舞姫) として読んでいく点。

(3) 本時の展開 (授業デザイン)

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	前時の内容の復習と今日の活動内容確認 (5分)	今回は便覧資料など時代背景もふまえた主張であることを強調する。
展開①	発表 (15分) カード④「豊太郎の苦悩は個人の問題か、それとも時代の病か」 カード⑤「豊太郎にとって『書くこと』は自己弁護か、それとも懺悔か」	発表者：本文に加え、根拠となる事象を参考資料などを示しながら話すこと。 聴衆：面白いと思った主張はメモをとること。
展開②	【全体討議】 (15分) 太田豊太郎を通して、どんな“近代人”が見えたか。	「豊太郎はなぜ書くのか」という問いのために漱石や鴎外が描写しようとした「近代人」の共通点を紐解く。※近代人＝「社会的自我」(フロム)を守るために、他者の期待に沿う生き方を優先してしまう。一方で自我を差し出すふるまいは自らを「道具」にすることと同義となってしまう存在
まとめ	学びの整理 (10分) “近代人は「書く」ことに～を求めるが、「書く」ことには一のような「語りえぬこと」も存在する。〰に当てはまるように自分の言葉を整える。	明治以降、言文一致は「自己の内面」を記述し対象化することを可能にした。これまで歌を詠み感情を表現し、日記で日々の記録をとどめてきただけではないアイデンティティの構築のための語り＝ナラティブが必要になってきたことこそ「舞姫」は語っている。

(4) 本時の評価

本時の目標「豊太郎はなぜ書くのか」

	A. 十分満足できる	B. 概ね満足できる	C. 努力を要する
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・太田豊太郎が時代を象徴する人物として描かれており、近代人が抱える自我の悩みを「書くこと」で消化しようとしていることを理解している。 ・孤独に「書く」営為は「語りえぬこと」も内包することに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『舞姫』が構造として手記の形をとっていることを理解している。 ・太田豊太郎を近代人的人物の象徴として捉えている。 ・書くことの意味を自分事として再解釈しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『舞姫』のストーリーの中から太田豊太郎を捉えるばかりで嫌悪感などの感情面から「書く」行為を見つめるレベルにとどまっている。 →自己欺瞞・責任転嫁など

中学 2 年 7 組 数学科 研究授業デザインシート

2025 年 11 月 21 日 (金) 授業者 原澤 研二

1. 単元名 第 3 章 円 (数研出版『体系数学 2 幾何編』)

2. 授業デザイン

(1) テーマ「反転授業と数学的表現活動」

反転授業を活用した主体性の涵養と、協働的な授業実践によって、日常の授業の中に探究的な時間を仕掛けていくことを目的とした。

(2) 教材観・生徒観・指導観

・**教材観** 円周角の定理とその周辺定理を学び、それらを使いこなす図形の性質を考察することを目標とする。またこの単元は、今後の数学的活動の土台となる以下の 3 要素をもつ格好の教材であると考えられる。即ち、①手を動かし試行錯誤すること、②複数の定理を組み合わせて結論に至ること、③結論までの過程を順序立てて証明や記述答案として再構成できること、の 3 つである。

・**生徒観** 数学の学習に前向きな生徒が多い。苦手とする生徒も一定数いるが、一人でじっくりと考える姿勢、話し合っ解決への糸口を模索する姿勢で学びに向かう雰囲気がある。一方で、分かっているも発言や発表をためらう様子も散見される。授業内で誤答から学ぶ姿勢を醸成することや、正解に至るプロセスを検討することによって論理的な思考力はさらに伸びると考える。

・**指導観** 4 月からいわゆる「反転授業」によって授業を展開してきた。予習動画 (基礎概念や例題解説) を事前視聴し動画の板書内容をノートにまとめる。授業では、対応する教科書の練習問題に取り組み生徒が解説をするという形態である。授業内で演習時間や発表時間を多く確保し、単元の学習が済んだ後には発展演習の時間も多くとってきた。本時は、その発展演習の授業である。この授業形態の中で、上記の教材観で示した①～③の要素に対応して、次の 3 つを重視して指導を重ねてきた。即ち、①初見の問題に対して一人でじっくり問題に向き合うこと、②生徒同士の話し合いや相談により思考の深化を図ること、③生徒自身が前に立ち問題の解説発表を行うこと、の 3 つである。

(3) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各種定理、性質について証明ができる。 ・それらの定理、性質理解をし、角度や長さを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の定理や性質を組み合わせ問題解決ができる。 ・自身の思考プロセスを他者に順序立てて説明できる。 ・思考プロセスを証明や記述答案として表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習動画を通じて基礎概念の理解をしようとする。 ・問題に対して自力で試行錯誤して取り組もうとする。 ・他者との数学的対話を通して理解を深めようとする。

(4) 単元指導計画 (全 18 時間)

1 節 外心と垂心 (1 時間)	5 節 円の接線と弦のつくる角 (1 時間)
2 節 円周角 (2 時間)	6 節 方べきの定理 (1.5 時間)
3 節 円に内接する四角形 (1 時間)	7 節 2 つの円 (1.5 時間)
4 節 円の接線 (2 時間)	1～7 節 総合演習 (5 時間) 本時 17/18
1～4 節の総合演習 (3 時間)	

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

方べきの定理や接弦定理を利用する発展問題について、生徒自身が思考プロセスや解答に至る過程を他者に順序立てて説明する。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

反転授業によって捻出した時間を演習・発表の時間に転化することで半年間指導してきました。生徒たちが相互に主体的に数学の内容を議論し、言語化できているかを参観いただけたらと思います。また、そのような活動が活発になるためのご意見やアドバイスなど頂戴できたら幸いです。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	本時の学習課題の確認（5分）	問題内容の確認と発表者の確認
展開 ①	問題1 担当班の発表（5分）	生徒同士の質問や投げかけが発生するように促す。 各班で班員の理解を確認し、質問などがあればまとめさせる。 説明や解説が不十分な点があった場合は補足する。
	非担当班の班内の理解の確認（5分） 非担当班の質問・評価のフィードバック（5分）	
展開 ②	問題2 担当班の発表（5分）	生徒同士の質問や投げかけが発生するように促す。 各班で班員の理解を確認し、質問などがあればまとめさせる。 説明や解説が不十分な点があった場合は補足する。
	非担当班の班内の理解の確認（5分） 非担当班の質問・評価のフィードバック（5分）	
まとめ	各自解答を作成（10分）	

(4) 本時の評価

- ・担当しているか否かに関わらず、内容を自分の言葉で整理し、順序だてて説明をする力を評価する。
- ・自分の理解や疑問点を明確にするために、他者へ説明したり質問したりする態度を評価する。
- ・自身の理解を答案という形で言語化し表現しようとする姿勢を評価する。

高校2年1・2組 数学科 研究授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 廣松 光一郎

1. 単元名

数学B 第2章「統計的な推測」

2. 授業デザイン

(1) テーマ「不確定なものについてどう考えるか」

不確定な情報を数学的に扱い、全体の特性を推定する方法や仮説検定による判断の仕方を学ぶだけでなく、自らの結論を批判的に考察し、他者にわかりやすく説明する力を育成する。また、計算過程におけるICT活用の有用性に気づくとともに、データの可視化を通して理解を深めることをめざす。

(2) 単元の目標

確率変数と確率分布の基本的性質を理解させる。期待値（平均）および標準偏差の定義・意味・求め方を理解させる。推測統計の基礎となる独立性・標準化・正規性の概念を理解させ、標本調査について理解を深めさせる。標本の測定値から母平均・母比率を推定する方法を理解させ、区間推定の計算方法を指導する。また、仮説検定の意味と手順を理解させ、統計的推測の考え方を総合的に指導する。

(3) 単元観・教材観・生徒観

【単元観】中学校で学習した「データの活用」や、数学I・Aで学習した「データの分析」「確率」の内容を基礎として、不確定な事象を数学的に考察し、一部の情報から全体の特性や構造を推測する方法を学ぶ。本単元は、探究活動における仮説設定・情報収集・データ分析・結果の表現などに必要な基礎的資質・能力を育成する上で重要な内容である。

【教材観】教科書および副教材の問題は、基本的な概念の理解や計算方法の習得を確認するために用いる。それに加えて、生徒が興味をもって取り組める実社会の事例や、理系の探究活動につながる教材を取り上げ、他教科や日常生活との関連を意識させるように留意する。また、シミュレーションやビジュアライゼーションを活用し、統計的推測の概念に対する直感的な理解を深めることをねらいとする。

【生徒観】文理混合クラスの1・2組に在籍する理系コースの生徒25名で構成されている。数学に対する関心が高く、授業に積極的に参加する生徒が多い。理解の程度には個人差が見られるが、互いに教え合いながら課題に取り組むなど、協働的に学習を進めようとする姿勢が育っている。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	確率変数の基本的性質を理解し、標本調査による推定、検定を正しく行える。	不確定な事象について論理的に考察・判断し、その根拠を数学的に表現できる。	授業中に深く考え、意欲的に発言し、各種課題に真剣に取り組む、学びを自ら深める。
評価方法	各種課題 定期テスト	各種課題 定期テスト	授業における取組の成果物、各種提出物の提出状況、内容

(5) 単元指導計画（全19時間）

第1節「確率分布」 12時間

第2節「統計的な推測」7時間

- 母集団と標本、推測統計、抽出
- 標本平均と分散
- 標本平均の分布、大数の法則
- 母平均の推定、信頼区間（本時）
- 母比率の推定、信頼区間
- 仮説検定①
- 仮説検定②

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

正規分布を用いて母平均の区間推定を行うことができる。指定された信頼度に対する信頼区間の求め方を習得し、信頼度の意味を理解する。標準偏差・標本サイズ・信頼度の相互関係を理解する。棒グラフなどのエラーバーの意味を理解し、推定値に対する信頼区間を図として表現できる。さらに、今後の探究活動において区間推定の意義を感じ、その活用に意欲をもてるようにする。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

1. 「導入」のシミュレーションでの生徒の気づき・関心の様子
2. 「展開②」のエクセルの関数を用いて計算できているか
3. 「まとめ」のペアワークで目標チェックをしている様子

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文などで区間推定がどのように用いられているかを知る。 ・ シミュレーションを通して標本平均のばらつきを視覚的に認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼区間に関する学術論文中の記述や、グラフのエラーバーの例を提示する。 ・ 無作為抽出シミュレーションができる Excel ファイルを配布・説明する。
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規分布を用いて信頼区間の幅がどのように決まるかを学び、信頼度の意味を理解する。 ・ 信頼区間の式「推定量$\pm z_{crit} \times SE$」の意味を理解する。 ・ 練習問題を通して計算方法と思考方法の両面から理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「95%の信頼度」とは、母平均が95%の確率で信頼区間に含まれているという意味ではないことを明確に説明する。 ・ 計算問題と考察問題の両方を提示し、思考を促す。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・ Excel を用いて、任意の信頼度に対する信頼区間の計算方法を習得する。 ・ NORM.S.INV 関数を活用して信頼区間を求める練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NORM.S.INV 関数の使い方を指導し、教科書巻末の正規分布表との違いを解説する。 ・ 生徒が操作に迷った場合はトラブルシューティングを行う。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで目標チェックを行い、本時の学習内容を整理する。 ・ 本時の課題に取り組み、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視し、困っているペアを支援する。 ・ 参考となる生徒の回答や考え方を共有し、学習の定着を促す。

(4) 本時の評価

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	標準偏差・信頼度・標本サイズの関係を理解し、正規分布を用いて母平均の信頼区間を適切に算出できる。	区間推定の結果を基に推定の信頼性や不確実性を分析し、数値的・視覚的根拠をもって論理的に説明できる。	区間推定の意義を自ら見だし、ペア活動や発言を通して主体的に理解を深めようとする態度が見られる。
評価方法	練習問題 目標チェック 本時の課題	目標チェック 本時の課題	授業中の取組状況 発言・教え合いの様子

高校2年9組・10組 理科 研究授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 鍵山 千尋

1. 単元名

第4部 電気と磁気 第2章 電流 第2節 直流回路

2. 授業デザイン

(1) テーマ「電気回路」

班毎にセンサー回路（例：熱いと知らせる、暗くなると知らせる、等の回路）の設計を行う。

(2) 単元の目標

電池の起電力と内部抵抗、ホイートストンブリッジ回路、電球やダイオードなどの回路素子の電流特性の測定の実験を通じて、キルヒホッフの法則を理解し、日常生活にどのように活用されているかを考察できるようになる。

(3) 単元観・教材観・生徒観

本単元の基本的な内容は、中学理科と高1物理基礎で学習している。しかし、実際に回路を組む実験を行うと、電圧・電流の概念があいまいになっている生徒が多い。ブレッドボードを用いることで回路の組み換えが容易になるため、手を動かしながら試行錯誤を繰り返して回路を作成し、回路における電位分割の概念理解を深めてほしい。

本授業の対象は、高校2年生MSコースに属する生徒である。MSコースは「医学部を始めとする難関大学合格を目指し高いレベルの学習を進める」を目標にしている。生徒たちは「学び」に対して意欲が高く、「学び」そのものを楽しむことができる集団であると感じている。昨年度の物理基礎の単元「電気」学習の際に、実験計画や発表に高い意欲で取り組み、豊かな学びの姿勢を示してくれた。本単元でも、教員側が予測しないような学びを期待している。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	基本的な概念や原理・法則の個々の理解に留まらず、これらに関連させ系統的な理解まで高め、総合的なまとまりのある構造として全体をとらえられるようになる。	観察、実験を通して、情報収集の方法や仮説の設定、実験計画、実験データの分析・解釈などの探究方法を習得する。物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を獲得する。	実験や課題等に積極的に取り組むことができる。 物理学の発展や科学技術の進展について興味を持って
評価方法	定期テスト 実験プリント	定期テスト 実験プリント 発表	実験プリント 課題 発表

(5) 単元指導計画（全10時間）

2時間 直流回路に関する復習、オームの法則、キルヒホッフの法則

2時間 電気回路の実験①（実験プリント&ワークシート1）

ブレッドボードを使った回路組み立て練習

- 2時間 電気回路の実験②（実験プリント&ワークシート2～3）
ブレッドボードを使って回路を組み立て、デジタルマルチメータで電圧・電流を測定する
- 2時間 回路素子の特性を調べる実験（実験プリント&ワークシート4）
回路素子（光依存抵抗、LED、電子オルゴール、サーミスタ）の特性を調べる
電流電圧特性のグラフの作成
- 1時間 センサー回路の設計（本時）（実験プリント&ワークシート5）
テーマを選んでセンサー回路を班ごとに設計する
- 1時間 班ごとの発表 ※授業時間数次第ではカット

3. 本時の展開

（1）本時の目標

センサー回路の設計を通じて、回路における電位分割の概念やキルヒホッフの法則の理解を深める。

（2）本時の授業構想と参観していただくポイント

本時までの間に、電気回路に関して数回の実験を行ってきた。その総まとめとして、センサー回路の設計を班ごとに行う。

教材はイギリスのアドバンスン物理のカリキュラムにある「センサープロジェクト」から借りてきている。「センサープロジェクト」を、NOSI (Nature of Scientific Inquiry) の観点を取り入れてアレンジし、生徒の探究を深めたい。

理科教育における NOSI の特徴を一言でまとめると、「科学の方法そのものを理解し、科学者のように問い、考え、検証する姿勢を育むこと」である。知識の習得だけでなく、科学的な知見や成果がどのように構築されるのか（探究のプロセス）に焦点を当て、生徒が科学をする主体となる点が NOSI の核心である。

（3）本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	本時に作成する回路の提示	実際に組んだセンサー回路をみせて、どのような方法で作成できるか問いかける。
展開	回路の設計 班毎に議論を行い、設計に基づいて回路を作成する	情報（明るい・暗い、熱い・冷たい）をどのように取り出し、どのように知らせるのかを考えさせる。 設計が早く終わり、回路が完成した班は、発表の準備の指示をする。もしくは、時間の
まとめ	発表準備 いくつかの班の成果の紹介	自分の班で作成した回路の設計理由や工夫を発表する準備の指示を行う。 本時内に完成した回路があれば、授業者が全体に紹介する。

（4）本時の評価

- ①作成した回路の確認 ②ワークシートの記入 ③発表

中学3年3組 芸術科(美術) 研究授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 米永 忠裕

1. 単元名 「出征前対話型描画 ～もし出征するなら、あなたは何を描きますか?～」

2. 授業デザイン

(1) テーマ 無言館の戦没画学生の作品を通して自分の大切な存在を見つめなおし対話型描画を行う

(2) 単元の目標

- ①無言館の絵画を用いた対話型鑑賞を行い、画学生が出征前にどのような思いで対象と向かい合い、どのような気持ちで描く時間を過ごしたのかを考える。
- ②自分ならどのような対象とどのような描画の時間を過ごすのかに思いめぐらせながら、テーマ設定を行い、モチーフを定め、大切な存在への思いを込めて、心で、言葉で対話しながら、描く。

(3) 教材観・生徒観・指導観

立命館中学校・高等学校の大きな平和教育に関連する大きな取り組みとして、中学2年生の2月に沖縄平和研修を実施している。学校全体で3学期始業式に平和講演会を実施し“戦争体験者”や“平和活動に関わりの深い方”などに講演を行ってもらっている。また、立命館学園が15年戦争に関わってしまった反省から生み出された「平和と民主主義」という基本理念に基づき、立命館大学国際平和ミュージアムが設立され運営されている。しかし、現在の本校の中高生は立命館学園と戦争との関りの事実を全く知らない生徒が多く、大学の国際平和ミュージアムの存在すら知らない生徒もいる。上記の大きな2本の平和教育の取り組みあるものの、本校の平和教育の乏しさを痛感する。

それを打開するとともに、平和教育の多くのパターンである戦争の悲惨さを学ぶものから、大切な存在を再認識し、それを守るためには戦争は絶対に行ってはいけない事であると体感する授業としたい。

今回使用する「戦没画学生の絵」は確かに戦争遺品であり画学生の無念さや戦争の悲惨さを伝える部分もある。しかし、それは表面的な一部であり、重要なのは、戦没画学生が出征前最後の絵のモチーフと向かい合って描いている時間は、確かに悲壮感も無念さもあっただろうが、だからこそ、本当に大切なモチーフへの愛を確かめ、描画を通して対話を楽しみ、噛みしめるとしても幸福な時間でもあったはずだ。そして、戦争からの無事に帰還する希望も描き込んでいるはずである。

生徒は、戦争という言葉(今回は戦没画学生)を出した途端に、心身の状態が悲惨な事実に向き合うときのまじめな顔、真剣な顔、悲し気な顔、が組み合わせさった、ふざけてはダメ、笑顔もダメの平和学習モードに切り替わることが多い。通常の平和学習では、この心身の状態が正解であるのであろうが、この状態では戦没画学生の絵を悲惨なもしか見られなくなる。この授業では、そこよりも、一画学生として、無念さや悲惨さ以上に、愛情を持ってモチーフに向かい合っていた事実気づき、自分もそんな大切な存在への思いを込めて、心で、言葉で対話しながら、描くことを目指す。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	自分の表現に合った画材、素材を選択し、描画技法を検討し、作品制作することができる。	対話型鑑賞やグループ議論において、感じ取り、深く読み解き、考えることができる。	大切なモチーフに思いを寄せ、対話しながら作品制作を行う。
評価方法	作品、レポート、振り返り用紙などで総合的に評価する。	対話型鑑賞・議論の様子、作品、レポート、振り返り用紙などで総合的に評価する。	作品、レポート、振り返り用紙などで総合的に評価する。

(5) 単元指導計画 (全5時間)

- 1 時間目【本時】 導入・対話型鑑賞・グループ議論・モチーフの検討
 2 時間目 下絵
 3・4 時間目 彩色・仕上・まとめレポート

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ①導入として、無言館の絵画を用いた対話型鑑賞を行い、画学生が出征前にどのような思いで対象と向かい合い、どのような気持ちで描く時間を過ごしたのかを考える。
- ②自分ならどのような対象とどのような描画の時間を過ごすのかに思いめぐらせながら、テーマ設定を行い、モチーフを定める。
- ③モチーフとの対話型描画に最適な、サイズや画材を選び、実制作に入る。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

各小学校や中学2年生の沖縄平和研修とその事前学習を通して、平和教育を経験してきた生徒達は、戦没画学生と聞いた瞬間に平和学習モード(真面目で真剣な、悲惨な事実に向き合うときの表情)に切り替わりやすい。もちろん大切なことであるが、それ以上に戦中を生きた若者の絵を通して、自分も1人の若者として本当に大切な存在と対話できることの幸せを実感する時間にこの授業をしたい。

(3) 本時の展開 (授業デザイン)

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	無言館の絵を1枚見せ、対話型鑑賞をクラス全体で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、無言館の絵と言わずにどう感じるか問いかける。 ・戦没画学生の絵であることを伝え、どう感じたか変化があるか問いかける。 ・対象に向かい合うときの気持ちを考えさせる。
展開①	グループに分かれて、別々の絵の鑑賞を深める。 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・数グループに分かれて、何を描いているか?なぜその対象を選んだか?描いているときの気持ちを考える。 ・グループ発表を行い、深める。
展開②	作者がどのような思いでモチーフを選び、どのような気持ちで制作する時間を過ごしたに思いをはせ、自分なら何を描くか考える。 モチーフ探し、画材・サイズの決定 実制作開始	<ul style="list-style-type: none"> ・一瞬で切り取れる写真ではなく、描く時間が必要な「絵を描く」行為を通して、対象と対話していることを伝える。描く時間が大切な対象へ思いを重ねる時間になっている。 ・それを踏まえ、もし自分が出征しなければなんなくなるとしたら、何を描くか考えさせる。 ・対象との対話に必要な、画材、サイズ、描画方法を検討し、描く。
まとめ	振り返り用紙記入	振り返り用紙を記入する。

(4) 本時の評価

対話型鑑賞、グループ議論、作品、振り返り用紙を総合的に評価する。

高校2年6組 家庭科 研究授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 糸井 駿平

1. 単元名 「共生社会と福祉」

2. 授業デザイン

(1) テーマ「よりよい家庭と共生社会を目指して」

単元の学習を通して、一人ひとりが家庭や地域社会を創造する主体者となり、家族や地域住民と共によりよい「共生社会」を創る人を目指す。

(2) 単元の目標

学習指導要領より

- 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。
- 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察する。

(3) 教材観・生徒観・指導観

教材観

家庭基礎では、保育・高齢者と分野が分かれており、まとめとして共生社会を学ぶのが通常の展開である。本校でも以前は妊婦体験や高齢者体験を別に行っていた。しかし社会では、妊婦や乳幼児と高齢者、障がい者など多様な人が家庭や地域などで分かれて生活しているのではなく、「共生」している。妊婦、子ども、高齢者など様々な立場を体験的に学ぶことで、より共生社会を自分事として考えることができる。また、役割を演じながら実習することで、自分たちができることを主体的に考えたり、違う年齢や身体の状態の人のことを考えて行動できるようにするねらいがある。そして、地域社会や行政のサービスや制度を知ることによって支援先があることを知り、将来的に社会的孤立をしないようにするねらいもある。

生徒観

事前アンケートの結果から、乳幼児との定期的な交流や地域の子どもの交流の少なさが顕著となった。高齢者との交流は二分している。*別紙参照。3・4時の授業を通して地域にいる乳幼児、高齢者、妊婦など自分とは異なる年齢や身体状態の人がいることを認識して、共生社会の主体者となって欲しい。

指導観

本単元は、1・2時で妊婦・乳幼児・保育や子育て支援・高齢者福祉についての知識を身につけ、3時でグループを一つの家族（妊婦役、パートナー役、高齢者役、子ども役）に見立て、ロールプレイング的に妊婦体験、高齢者体験などを行う。本時では3時での振り返りを行う。グループ内で自助・共助・公助の観点から様々な支援を考えさせ、具体的なサポートや方策などを考えさせたい。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	乳幼児、妊婦、高齢者、福祉制度などに関する知識がある。	共生社会に対する様々な支援を思考し表現する。	家庭や社会で主体的に共生社会を創ろうとする態度を持っている。
評価方法	定期試験、ワークシート	定期試験、ワークシート	一枚ポートフォリオ（振り返りシート）の単元課題

(5) 単元指導計画（全4時間）

1時	妊婦の身体の変化、胎児の成長、母体の健康管理、新生児の特徴、乳幼児の特徴・発達	3時	グループ内を一つの家族と見立て、妊婦体験、高齢者体験などを行う
2時	子育て支援、保育・教育施設介護サービス、高齢者を支える地域社会の取り組み	4時（本時）	3時の振り返りをグループごとに行う。本時の展開参照

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

前時で行った実習をもとに、よりよい家庭・社会を築いていくための様々な必要な支援を考え、共生社会を創る主体者を目指す。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

3時の実習をもとに、振り返りをする。3時の実習と本時のグループごとに振り返りを通して生徒の共生社会に対する意識が変わるかを主眼におき観察していただきたい。
 ＊グループワークがメインとなるが教室全体を観察してもよいし、1グループを観察し続けるのもどちらでもよい。授業者が拾えない声を拾っていただきたい。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の授業目標の再確認（前時からつながっている授業で前時に目標を伝えている） ● 前時の実習の動画をクラス全体で視聴する。（全体で5分） 	よかったサポートなどをその都度伝える。
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時の実習を振り返る。（15分） 妊婦体験、高齢者体験の体験者目線 どのようなサポート、声掛けがよかったか。どのようなサポート、声掛けをして欲しかったかを振り返り共有する。 パートナーなどの目線 サポートや声掛けで意識したことや難しかったことなどを振り返り共有する。 記録者からの目線 体験者とサポーターを客観的に見ていた人として振り返り共有する。 	導入の実習動画を踏まえて、細かいところのサポートなどについて気付かせ振り返りをするように促す。 グループ内で発言者の偏りがないように見回りが必要があればグループに声をかける。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域、自治体、国などのレベルでどのような支援があるか調べる。（20分） 自分の住んでいる自治体や日本にない制度でこのような支援が欲しいというものを考え、発表する。 ＊展開①、②は大幅な予定変更の可能性はある。自治体などの支援は事前課題で行う可能性がある。 	どのレベルでどのような支援ができるかを意識させる。 自分の住んでいる地域に興味を持つことができるようにする。自治体によっての差をグループ内でシェアするように声掛けする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 一枚ポートフォリオ（振り返りシートの記入）（5分） 	一枚ポートフォリオを記入しながら、前時の授業から今回の授業にかけての授業者から見た活動の総括を伝える。改めて、共生社会の主体者となれたかどうかを問う。

(4) 本時の評価

- よりよい共生社会を創造しようとグループ内で思考し、表現をすることができたか（思考・判断・表現）
- 共生社会に対して主体者になる意識を持つことができたか（主体的に学習に取り組む態度）

中学3年7組・8組 外国語科 研究授業デザインシート

2025年11月21日（金）授業者 松尾 由紀 Thomas Reynolds

1. 単元名

Introduction to Critical Thinking: Building Higher-Order Thinking Skills

2. 授業デザイン

(1) テーマ「多角的にクリティカルにテキストを分析しよう」

(2) 単元の目標

- ・ 様々な英語テキストを正確に理解し、その情報を選択・分析・評価する力を身に付ける（受容）
- ・ テキストや非言語情報の分析の結果、その中の問題点や問題の解消方法について英語で説明できる

(3) 教材観・生徒観・指導観

中学入学時のプレースメントテストと英語学習歴によって1年時より Advanced/Basic 講座に分かれて授業を行っており、この集団は Advanced 講座である。これまでテーマベースで単元を構成し、4技能の統合的育成を目指して様々なタスクに取り組みさせてきた。2年生までその多くは言語的課題に加え、創造性を発揮させるものが多かった。3年生では即興での英語の発話と、より高次の思考力の伸長を目指し、課題解決、発問力の構築、分析からの評価等を求めるようなタスクに挑戦させている。本単元は、高校での課題研究さらに大学での研究や論文執筆の際にも必要な、クリティカルな読解力の向上を目標にデザインされている。これにより自分自身の作文や発表に対してのセルフモニタリング力につながることを期待している。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	理解可能で正確な英語が算出できる テキストや他者の発話を正確に理解できる	議論や思考を通してアイデアを構築し、表現できる タスクの趣旨に沿って自ら考え遂行できる	積極的な思考活動をし、それらを表現できる グループワークで自身の思考の結果を共有し貢献できる
評価方法	授業中のメモ、作文や意見の録音などの成果物から評価	成果物から課題の特定、理由づけ、説明の明瞭さ等の観点で評価	授業中の見取り、成果物から総合的に評価

(5) 単元指導計画（全12時間）

1	事実か考えか①	複数の例文を fact/opinion/inference に分類、ペアで例文を作成
2	事実か考えか②	テキストを読み、違和感のある部分を抽出し理由とともに発表
3	グラフの魔法	同じデータを異なるグラフを用いて印象操作する方法を知る、グラフの改善案発表
4	因果関係と相関関係①	数種類のテキストを読み、因果関係と相関関係の違いを理解する
5	因果関係と相関関係②	相関関係と因果関係を混同したテキストの問題点を指摘する
6	論理的誤謬①	複数の例文を論理的誤謬の種類ごとに分類して整理する
7	論理的誤謬②	テキストを読み、その中に含まれる論理的誤謬を指摘する
8	根拠の適切さ・引用について	何をどのように引用するかを含めて論証の根拠を適切に提示しているかどうかを議論する
9	総合的な解釈【本時】	どの部分はそのまま受けとめることが可能で、どの部分は問題でそれはなぜなのかを特定しテキストを総合的にグループ単位で議論する
10	分析ファシリテート	単元最終タスク
11		グループごとに与えられたテキストを分析する。次にクラス全体にそのテキスト内容を紹介し分析するための議論をファシリテートする。クラスから出た意見を要約して板書をする。クラスでの議論とグループで考えた結論の相違点を比較しながら、議論のまとめを述べる。
12		

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ テキストや他者の発話を正確に理解し、分析に繋げることができる
- ・ テキストに含まれる問題点を理由とともに説明することができる
- ・ グループで議論し、改善案を提示することができる
- ・ 個人的に最も問題だと考えた部分とその改善案について即興で説明することができる

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

- ・ 今読んだばかりのテキストについて考えをまとめ発表しようとする積極的な発話
- ・ クラス全体でのやり取りを通して理解を深めていく過程
- ・ 間違いを恐れず発言し、それを認め合う安全な学びの場として機能する仕掛け

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	これまでに学んできた概念を生徒たちに説明させながら復習（5分）	言葉が足りない場合に質問をしたり、個人の発話を全体が理解しにくい場合に言い換えたりする
展開 ①	テキストの問題点の指摘（20分） ① これから読むテキストについて教員から簡単な口頭での導入 ② テキストを個人で読み問題点をメモした後に、グループ内でそれぞれの考えをつき合わせる。グループとして最も重要だと思う点3つを選ぶ ③ 選んだ3つの問題点をグループとして発表する。すべてのグループの発表をクラス全体で聞く、(発表者への質問可)	生徒たちに興味を持たせるよう発問をしながらの導入 グループごとの議論の進捗を確かめながら適宜必要な補助 説明時に英語のミス（伝わらないほどの場合）などを適宜言い換えるなどのサポート
展開 ②	クラス討論をふまえて、再度グループ内で以下について議論する(15分) ① テキストをそのまま受けとめることが可能な部分と、問題がある部分（それはなぜなのかも含め）を特定する。 ② 問題のある箇所については、テキストの文言の訂正をすとか主張の根拠とすべき情報を変更するなどの修正提案を考える	グループごとの議論の進捗を確かめながら適宜必要な補助 生徒が話しやすいよう質問を挟むなどの補助
まとめ	本時の議論を踏まえ、個人的に問題だと思う3つの問題点と動変更するかを録音して提出（5分）	内容面と言語使用面に対してのフィードバックを個別に与える

(4) 本時の評価

- ・ テキストを理解した上で、適切だと思われる指摘をすることができているか
- ・ 他者に伝わるように英語での説明をすることができているか

高校3年7組 普通科 研究授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 武田 菜々子

1. 単元名

CNN Comprehensive Trainer 2024 朝日出版社
News 3 “Creating Soft Can Be Hard”

2. 授業デザイン

(1) テーマ

「科学ニュースを通して未知のトピックを理解し、英語で発信する力を育てる」

(2) 単元の目標

- CNN News を視聴し、事前に学習した単語と、導入部分での教師による scaffolding、ニュースの映像を手掛かりに不明な点は想像で補いながら要点を理解できる。
- CNN News からの情報とその後の教師からの講義に基づいて、その内容を自分の言葉でパートナーに説明したり意見を述べたりすることができる。
- CNN News の内容を踏まえ、自分の考えを発信したりグループで議論したりすることができる。

(3) 単元観・教材観・生徒観

高校3年7組は理系SSコース内の Super Science Global Class (SSG クラス) であり、本校が毎年11月に主催する Japan Super Science Fair (JSSF) の中心として運営を担い、全員が英語で課題研究を発表した。英語での研究発表を高校2・3年次の教科横断的取組として2005年度から実施しており、今年度もクラス内のすべての生徒が学術的かつ分かりやすい英語で発表し、質疑応答にも対応できるレベルに到達している。国際共同研究に参加する生徒も複数おり、科学を題材に海外生と議論する力の育成にも力を入れてきた。英語で科学研究を理解し即興的に発話する力は伸びたが、オーセンティックなニュース理解や複雑な意見交換には課題も残る。CNN News を活用し、オープンエンドな質問に取り組むことで柔軟な英語運用力を育てたい。また、JSSF 直後の授業として、生徒一人ひとりが国際的に活躍する理系人材としての自覚を深め、将来への学びにつながる内容としたい。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	CNN News の内容を聴き取り、映像や教師の支援 (scaffolding) を手掛かりに不明な語句や内容を推測しながら要点を理解できる。	ニュースの内容をもとに、背景や意図を考え、自分の意見やアイデアを英語で説明・共有することができる。	初めて扱うニュース内容にも関心を持ち、理解しようとする姿勢や、自らの考えを英語で表現しようとする意欲が見られる。
評価方法	・講義メモ ・口頭での理解確認 (ペアへの説明、全体での確認等)	・ペア・グループでの意見交換 ・ニュース内容に関する英作文または口頭発表	・授業中の発言・態度の観察記録 ・振り返りシート (学習の気づき・興味・今後の課題)

(5) 単元指導計画 (全1時間)

3年時の1学期に CNN Comprehensive Trainer 2025 を使用してきた。今回はその流れを受けて2024年度版から科学の内容を取り扱った News を題材とした。通常授業においては、1つの News に対して2~3時間を使用したが、今回は特別授業として1時間にまとめた。通常の授業では、1つの News に対し、「トピックの導入と新出単語」「内容理解」「グループ活動」の3段階で進めた。

3. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ① 初めて触れる科学技術についての CNN News を視聴し、導入部分での教師による scaffolding とニュースの映像を手掛かりに不明な点は想像で補いながら要点を理解できる。
- ② CNN News からの情報とその後の教師からの講義に基づいて、ソフトロボティクスについて自分の言葉でパートナーに説明したり意見を述べたりすることができる。
- ③ ソフトロボティクスの活用事例をグループで考え、英語でアイデアを提案することができる。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

本時では、News のトピックであるロボット工学の中でも新しい分野である柔らかい素材でのロボットについて考える。ロボットのイメージは硬いもの、という固定概念を変化させ、柔らかい素材のロボットの必要性や利点について考えることを導入とする。その後、スライム素材のロボットを紹介し、最先端の科学技術について理解を深めさせる。導入や講義を行う際にさまざまな質問を投げかけることで生徒の思考力を鍛え、自由な発話を促すことで今後の国際舞台で必要となる英語で積極的に意見を表現する態度を養う。また、現段階で生徒が持つ力では一度で理解しづらい CNN News を用いて、生徒が主体的に内容理解に取り組む姿勢を養い、教師の講義で理解の定着を図る。最後に自分たちで新しいソフトロボットに対するアイデアを共有することで、グループで議論する楽しさや難しさを学び、柔軟な思考力と科学的内容の発信力を養う。参観していただくポイントは①教師の scaffolding によって、生徒が未知の内容をどのように理解しようとしているか。②ペアやグループ活動を通して、生徒が英語で自分の考えをどの程度表現・共有できているか。③教師の問いかけが、生徒の思考や発話をどのように引き出しているか。

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	○【生徒⇄生徒】(帯活動) This or That (2分) ○【教師⇄生徒】「様々な材質や形状のロボット」導入 (5分)	Activity で英語授業への切り替えを図る。 テーマの導入⇒「ロボットは硬い」⇒柔らかいロボットの利点⇒ロボットを作成するための最もやわらかい素材は？⇒今時の News のトピックであるスライムにつなげる。）
展開 ①	○CNN (前半) 視聴 (2分) ⇒内容講義前半 【教師⇄生徒】(5分) ○CNN (後半) 視聴 (2分) ⇒内容講義後半 【教師⇄生徒】(5分)	CNN 視聴。問いについて考えさせる。インタラクティブな展開を意識しながら、News のトピックの内容を教師のプレゼン形式で説明し生徒はメモを取りながら講義を聴くよう促す。
	○【生徒⇄生徒】News の内容について理解できたことを講義メモをもとに1分間でパートナーに語る。時間があればそれに関する意見を述べる。(3分)	机間巡視をし、間違いがあれば正す。2人目の説明は新しい情報のみで行うよう指示する。ペアでインタラクティブなやり取りをしながら説明するよう指示する。
展開 ②	○【生徒⇄生徒】ミニプレゼン作成 (14分)	出されたトピックについてペアでアイデアを出し合う。まとめる前に教師が用意したアイデア例を紹介する。
まとめ	○【生徒⇄生徒】ミニプレゼン発表 (4分)	ペアごとに別のペアにアイデアを発表する。
	○【生徒⇄生徒】前で発表 (3分)	時間があれば1組ほどのペアを前に立たせてアイデアを発表させる。
	○終わりの挨拶 (1分)	

(4) 本時の評価

- ① 教師による scaffolding や映像を手掛かりに、CNN News の要点を理解しようとする姿勢と理解の程度を評価する。
- ② ペア活動において内容を自分の言葉で整理し、説明したり意見を交わしたりする力を評価する。
- ③ グループ活動において英語で積極的にアイデアを提案し協働的に発表する態度を評価する。

中学2年8組 課題研究科 研究授業デザインシート

2025年11月21日(金) 授業者 長野 博樹・折田 浩一

1. 単元名

身の回りの不便を感動に変えよう！オリジナル便利グッズ開発

2. 授業デザイン

(1) テーマ「ものづくりを題材にしたPBL学習」

(2) 単元の目標

身の回りの生活や社会の中にある課題や不便さに目を向け、社会の一員として主体的に課題を発見しようとする態度を養う。チームで協働して課題の解決方法を構想し、デジタル工作機器等を利用して試作・改良を重ねながら、使用者の立場に立った実現可能で満足度の高い商品を企画・制作する力を育成する。また、他者の意見や既存の商品の特長を踏まえ、自他の作品を多面的に評価・改善しようとする姿勢を培う。

(3) 教材観・生徒観・指導観

【教材観】「便利グッズ」という題材は、生徒が日常生活の中で直接関わる身近な課題を起点とするため、興味・関心を喚起しやすく、自ら課題を見つけて解決する意欲を高めることができる教材である。また、既存の商品や他チームのアイデアと比較・検討する過程を通して、多様な価値観や発想の違いに気づき、協働的により良いものを生み出そうとする態度を育むことができる。さらに、チラシやCMなどの表現活動を取り入れることで、制作した作品を社会に伝える力やプレゼンテーション能力を育成することができる。

【生徒観】現代の生徒は、既製品やデジタルツールに囲まれた便利な生活を送る一方で、「なぜそうなっているのか」「もっと良くするにはどうすればよいか」といった視点を持ちにくい傾向がある。本単元では、身近な不便さに気づく観察力と、それを自分ごととして捉える主体性を引き出すことが重要である。また、チームでの話し合いや役割分担を通して、互いの意見を尊重しながらより良い成果を目指す協働的態度を育てたい。さらに、試作や発表を通して他者からの意見を受け入れ、改善し続ける姿勢を身につけることで、実社会に通じる探究的な学びの基盤を形成する。

【指導観】本単元では、生徒が「身近な課題を自分ごととして捉え、主体的に解決策を考える」ことを重視する。教員は、課題発見から試作・改良、発表に至るまでの探究的なプロセスを支援し、生徒が試行錯誤を楽しみながら学べる環境を整える。

(4) 単元の評価基準と評価方法

	A. 知識・技能	B. 思考力・判断力・表現力	C. 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	より良い商品にするための情報や技能を収集し、得られた情報や技能のもつ意味を読み取り、整理・使用している。	身の回りの不便について思考を深め、解決方法について適切に判断し、考えを論理的に表現している。	商品を企画する活動に関心をもち、自分の考えを意欲的に伝えたり、他人の意見を受け入れようとしていたりしている。

(5) 単元指導計画(全15時間)

(1h) 便利グッズオリエンテーション	(1h) 発表会準備
(1h) チームMTG アイデアの出し合い	(1h) 発表会
(2h) チームMTG 商品コンセプトの考案	
(1h) チームMTG 制作に必要な物品の整理	
(8h) 本制作・チラシやCMの作成	

3. 本時の展開

(1) 本時の目標：単なる便利グッズの披露会ではなく、学びの共有と改善の場とする。

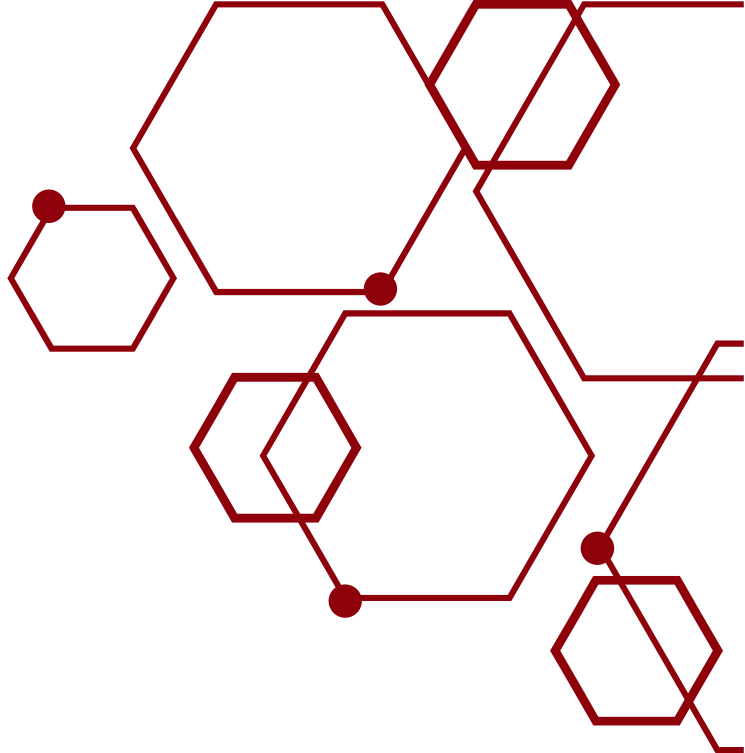
- ・チームで制作した便利グッズを発表し、使用者の立場に立った工夫や改善点を説明できる。
- ・他チームの発表を聞き、良さや改善点を多面的に評価し、学びを共有する。
- ・発表を通して、課題解決のプロセスや協働の成果を振り返り、次につながる気づきを得る。

(2) 本時の授業構想と参観していただくポイント

- ・使用者の視点に立った発想・改良がなされているか
 便利さやデザイン性など、社会的な価値を意識した工夫が見られるか。
- ・表現、発信力の育成が見られるか
 チラシやCMなどを効果的に活用し、相手に伝わる発表となっているか。
- ・発表会が単なる「披露する場」ではなく「学び合いの場」となっているか

(3) 本時の展開（授業デザイン）

	学習内容・学習活動	授業者の働きかけ
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の目的と流れの確認。 ・評価観点の説明。 ・評価シートの配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の意義を強調し、緊張を和らげる雰囲気づくり。 ・評価シートを配布し、記入方法を説明。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームの便利グッズの発表 <ul style="list-style-type: none"> ・聴衆は評価シートの記入 ・質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時間を管理し、質疑応答で「使用者視点」や「改善点」を引き出す質問を投げかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・「この便利グッズを使う人はどのような場面で便利だと思うか？」 ・「さらに使いやすくするためには、どのような改良が考えられるか？」
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元を振り返り、「課題発見→解決→改善」の学びを整理。 ・次回に向けて「さらに良くするためのアイデア」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びの価値を言語化し、達成感を持たせる。 ・「多様な発想に触れることが次の新たなアイデアにつながる」ことを強調する。



R
RITSUMEIKAN

R
120th
ANNIVERSARY

